


世界農業遺産（GIAHS）申請書

概要情報

農業システムの名称：清流長良川の鮎（里川における人と鮎のつながり）
申請機関/組織：清流長良川の農林水産業推進協議会
国/場所/地域： 日本 岐阜県 長良川上中流域（岐阜市、関市、美濃市、郡上市）  <p>The figure consists of two maps. On the left is a map of Japan with a grey shaded area in the central region representing Gifu Prefecture. An arrow points from this area to a larger, more detailed map on the right. This detailed map shows the Nagara River basin, with the river flowing from the north to the south. Four cities are labeled along the river: Gifu (岐阜市) at the southern end, Kan (関市) slightly north of Gifu, Minami (美濃市) further north, and Kawanabe (郡上市) at the northern end of the detailed map.</p>
日本のほぼ中央に位置する岐阜県、その南部美濃地方の中央を流れる長良川に隣接する上中流域の4市からなる地域。
首都や主要都市までのアクセス： 東京まで、JR 東海道線と新幹線で2時間10分。車で約4時間45分。 名古屋市まで、JR 東海道線で20分。車で約50分。
面積：1,824km ²
地域の農業生態学的分類：温帯、内水面漁業、水田・畑作
地形的特徴：森林、河川及びその周辺の平野
気候区分：温帯湿潤気候
人口：577千人（2013年3月）うち農林水産業従事者数6,052人
主な生計源：農林水産業、商工・観光業
民族/先住民人口：該当なし

農業遺産システムの概要情報

長良川上中流域は、鮎を中心とした内水面漁業が盛んな地域である。サイトの中央を流れる長良川は、都市部を流れる川でありながら、豊かな水量と良好な水質を誇り、日本三大清流として知られる。流域の人々による水質保全活動により清らかな流れが保たれ、その清流により鮎が育ち、地域の人々が鮎からの恩恵を享受するなど、清流と鮎は地域の人々とそのくらしに深く結びついている。長良川におけるその循環は、人の生活、水環境、漁業資源が相互に関連する、世界に誇るべき里川のシステムである。

当サイトの重要な漁業資源である鮎は、海と川を行き来する回遊魚であり、河川生活期は水のきれいな上中流域に生息するため、いにしえから清流の恵みとして日本人のくらしに根付いてきた。中でも長良川の鮎は名産として伝えられ、その流域において鵜飼などの伝統漁法や鮎鮎などの食文化を発達させた。現在でも、長良川における鮎の漁獲量とそのブランド力は全国屈指となっている。また、同じく回遊魚であるサツキマスについても、漁が成り立つほどの資源量を維持しているのは長良川のみであり、流域では、農産物も含め特色ある農林水産業が展開されている。

さらに長良川流域では、水と農林産物を原料とする和紙等の伝統工芸、水にまつわる信仰・民俗芸能や、木材や和紙をもとに発展した情緒ある町並みなど独特の歴史・文化が息づいている。加えて、長良川の伏流水は流域の人々の生活水として利用、清らかな流れは川遊びなど憩いの場として親しまれ、川が織りなす景観は地域の人々にやすらぎを与えている。長良川の良質な水、景観、そして鮎は、流域にくらす人々の生命線であり、誇りである。清流長良川は、流域の人々のそうした想いを礎とした水を汚さないくらしぶりや、水源林育成、河川環境保全活動などによって今日まで保たれてきているのである。

鮎は日本、中国、韓国、台湾など東アジアにのみ生息し、その主な分布域は日本である。日本では河川漁獲量第2位の主要魚種であるが、近年、国内外を含め資源の減少や地域的な絶滅が懸念されているため、長良川においては鮎資源の確保に関し、鮎の生息に配慮した河川環境の維持や産卵場の保護、造成をはじめ、天然鮎を親に用いた稚魚放流や孵化放流、産卵観察が行われている。このような鮎の生息環境の保全は、生息域を同じくする希少魚種等の生息をも保障し、生物多様性維持にもつながっている。

以上のとおり、清流長良川とそのシンボルである鮎は、流域の人々の生活を支えるとともに、流域の人々の営みによって守られ、その循環のシステムは鮎以外の希少魚種等の保全にも繋がっている。近年、人口の増加、森林開発、工業利用により、世界的に水の汚染・不足、漁業資源の減少が懸念されている。鮎と清流長良川のシステムを次世代へと継承していくことは無論のこと、このシステムが GIAHS に認定され、人と鮎が相互に関連し清流が保たれる里川のモデルとして世界に発信されることは、河川における水環境の保全、漁業資源の確保、生物多様性維持といった世界的な課題解決に貢献するものと期待される。

清流長良川の鮎

～里川における人と鮎のつながり～

都市部を流れる川でありながら、清らかな水が流れ、鮎を中心とした内水面漁業が盛んな長良川。人の生活、水環境、漁業資源が相互に関連する持続的なシステムがある。

森が蓄える長良川の清流

長良川は都市部を流れる川でありながら日本三大清流と呼ばれる
・全国屈指の豊かな水量と、最高位の水質AA
・流域にくらす86万人の生活を支える水



清流 鮎

森を育てる活動

生産団体や自治体が、上流で森林を育成している
・漁協による広葉樹植林
・中流域岐阜市が上流域で行う造林
・伝統工芸和傘の原料木育成
・森林土壌の保水を高めるための間伐

川を守る活動

水を汚さない暮らし、水環境保全活動がある
・水を大切に使う共同水槽「水舟」
・土壌流出対策を行う大根産地
・NPO・市民による環境保全活動

清流が育む鮎

長良川の鮎は日本有数の漁獲とブランド力がある
・漁獲・養殖合わせた鮎生産量は日本一
・清流めぐり利き鮎会グランプリ受賞
・河川魚で唯一の地域団体商標＝「郡上鮎」
・漁協による全国唯一の鮎共同出荷システム

鮎と水の文化

鮎と水にまつわる歴史・文化、伝統工芸が伝わる
・伝統釣法「郡上釣り」や「瀬張り網漁」
・「鶺鴒」は室町時代とほぼ同じ漁法を継承
・郡上踊歌詞、芭蕉俳句に詠まれる鶺鴒・鮎
・農林産物と水でつくられる和紙・和傘

森・川・海のつながりで育つ鮎

鮎生息環境の保全と鮎資源の確保に取り組む
・鮎産卵観察会
・長良川産の養殖放流、孵化放流
・鮎と生息域を共にするオオサンショウウオ、ネコギギなどの希少種が生息

夏：鮎が大きくなる

秋：鮎が産卵、一生を終える

春：稚魚が川を上る

冬：稚魚が海で育つ

長良川は人が利用しつつ、適正に関与することで環境が守られている。里山に発し、里地を流れるいわば『里川』である。その里川における人の生活・水環境・漁業資源が相互に関連するシステム＝「長良川システム」として世界に発信、普及

国内：鮎・農産物等のブランド力向上。長良川の水環境保全強化。あゆパーク構想の推進。
海外：水不足への対応。アジア固有種鮎の資源確保。鮎の輸出と食文化の発信。

目次

I. 申請された GIAHS の特徴	1
世界的な（国家的な）重要性	1
1. 食料及び生計の保障	3
2. 生物多様性及び生態系機能	4
3. 知識システム及び適応技術	8
4. 文化、価値観及び社会組織（農文化）	11
5. 優れた景観及び土地と水資源管理の特徴	14
II. 農業システムの管理に関連した社会的・文化的特徴（任意）	17
III. 歴史的な重要性	17
IV. 現代的な重要性	19
V. 脅威と課題	20
VI. 実地的な考慮	22
VII. GIAHS 認定後の活用・保全計画（アクションプラン）の概要	24
参考文献	25
申請サイト位置図	26
生物多様性リスト（植物）	27
生物多様性リスト（動物）	33
農林水産物等の多様性リスト	35

農業システムの説明

I. 申請された GIAHS の特徴

世界的な（国家的な）重要性

鮎をはじめとした内水面漁業が盛んな当サイトは、人々の暮らしの中で長良川（写真1）の清流が保たれ、その清流で鮎が育ち、清流と鮎は地域の経済や歴史文化と深く結びついている。長良川におけるその循環は、人の生活、水環境、漁業資源が相互に関連している世界に誇るべき里川のシステムであり、いわば「長良川システム」と呼べるものである。



写真1 金華山、長良川、城下町一带
(国の重要文化的景観)

「長良川システム」は、次の3つの要素が循環システムとして機能していることに大きな重要性がある。

- ①暮らしや経済活動の中で、水を守る・水源林を育てる取り組みが行われ都市を流れる河川でありながら、高い水準で、水質、生物多様性が維持されていること
- ②水環境の保全と伝統的漁法の継承・資源確保の取組みにより鮎等回遊魚を対象とした内水面漁業が盛んでかつ農林水産業の生産力が維持されていること
- ③清流と地域の農林産物によって発展してきた歴史文化・産業があること

<里川とは>

里川は、手つかずの自然の中で環境が保たれている自然河川ではなく、森林管理や水防施設、清掃管理など人が適正に関与することにより生活領域の中を流れつつ、生活水源・漁場・農業用水等の経済的な価値、及びレジャー・景観・歴史文化等の精神的な価値を有し、かつ、生物多様性を保持している。いわば里山に発し里地を流れる川であり、長良川はまさに「里川」である。

<長良川の概況>

長良川は流域に約 86 万人の人口を抱え 1)、都市部を流れる川でありながら、環境省による名水百選や、日本の水浴場 88 選に河川で唯一選定されるなど 2)、日本三大清流として知られている。

長良川では、鮎をはじめとした内水面漁業が盛んで、鵜飼、郡上釣り、瀬張り網、夜網といった独特の漁法が発達し現在に受け継がれている。中でも鵜飼は、奈良時代や平安時代から記録が残り、長良川の鵜飼は、既に室町時代から現在とほぼ同じ漁法で鵜飼が行われ、鮎漁は古い歴史を持っている。

更に、農林水産業に関わる文化は、伝統工芸として、郡上本染（岐阜県重要無形文化財）、美濃和紙、岐阜和傘、岐阜提灯等が引き継がれ、これらは清涼な水と、原料となる農林産物が流域で得られたことから発達してきたものである。

このように農林水産業や文化に大きな恵みを与えている長良川の水であるが、その水質を保ってきたのは、降水量の多さや急峻な地形などの自然条件だけではない。

長良川流域では、古くから日々の生活、農業、伝統文化を支える水やその源となる山に感謝する白山信仰が息づき、水を大切にし、下流にきれいな水を届けたいとの思いが引き継がれている。上流域の人々が考え伝えてきた「水舟」と呼ばれる複層に分かれた共同水槽は、上段は飲料水、中段がすすぎ、下段が洗いに使われ、さらに下流の水路や池で飼育する鯉が残飯を食べることで、水が浄化されるといった水を汚さないくらし、漁業者や中流域の自治体による「長良川源流の森育成事業」をはじめとした上流域での水源林育成、市民団体等による清掃や自然保護活動のたまものである。

長良川におけるその循環は、人の生活、水環境、漁業資源が相互に関連している世界に誇るべきシステムである。

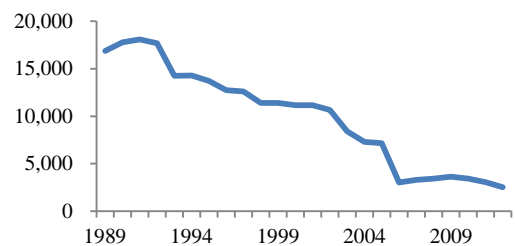
<鮎資源>

長良川のシンボルである鮎は、海と川を行き来する回遊魚である。海で育った稚魚は春に川を上り、春から夏にかけて豊かで清らかな水が流れる川で成長し、秋になると産卵のため下流に移動し、卵を産んで一生を終える。一方、卵から孵化した稚魚は晩秋に海へと下っていき、春まで沿岸域で生活する。

鮎は、生計を得るための漁業資源として、あるいは釣りの対象魚として、また地域住民のみならず、岐阜県民の生活に密着した存在であり、岐阜県の県魚に指定されている。

日本以外では、中国、韓国、台湾など東アジアに生息しているが 3)、寿命が1年であることに加え、海と川を行き来する回遊魚であることから、環境の変化を受けやすく、台湾では急速な経済成長に伴う環境汚染や乱獲により 1960 年代に姿を消した。その後、日本の釣り愛好家や水産学者が日本から鮎の卵を持ち込むなどして 1984 年に復活することができた 4)。

一方、日本の鮎は河川漁獲量第2位の主要魚種であるが 5)、沖縄本島でリュウキュウアユが絶滅したほか 6)、国内の主要河川では生息環境の変化や病害の発生等により鮎漁獲量が大きく減少している（グラフ1）。



グラフ1 日本における鮎及び全魚種の漁獲量の推移

しかし、長良川では、河川環境の保全や天然鮎と遺伝的に同じ稚魚の放流、病害対策等の資源保護対策により一定の漁獲量を保っている。鮎が生活史を全うするためには、十分な水量・良好な水質、瀬淵構造、様々な河床礫、川と海とのつながりといった多様な環境が必要である。これらの環境は、長良川の特徴的な漁獲対象魚であるサツキマスやモクズガニなど、その他の回遊魚等の資源保護にもつながっており、長良川は都市を流れる河川でありながら豊富な漁業資源と多様な生物種を維持している。また、鮎が多く生息する長良川の環境は、多くの水生生物の生息を可能とし、鮎などの漁業資源の供給源としてだけでなく、生物多様性の維持・保全を図る上でも世界的に貴重なエリアである。

＜水環境問題と長良川システム＞

世界の水環境は、地球温暖化に伴う気候変動、人口の増加、開発途上国の経済成長に伴う水需要の増加に伴い、世界の約7億人が水不足の状況にあると言われ 7)、今後さらに進行することが予想される。また、生活排水や工場排水、産業廃棄物などが適切に処理されず、世界では水質汚染が深刻な問題となる地域が存在する。

世界的に飲料水の汚染や水不足、漁業資源の減少、森林の開発が進む中で、長良川の循環システムは、河川を中心とした水・環境・食料のモデルケースになりうると考えられる。本サイトの循環システムは、世界で進みつつある水や資源の問題へのひとつの解決策として期待できる。

1. 食料及び生計の保障

《食料の保障》

長良川では、日本の河川漁獲量第2位の主要魚種である鮎を中心とした内水面漁業が盛んである。県全体の鮎漁獲量は216トン、養殖鮎の生産量は871トンと5)、鮎生産量全国一を誇っている。

特に上流部の郡上市は鮎の友釣りが盛んに行われ、地域を管轄する郡上漁業協同組合は国内で唯一の共同出荷体制が確立されている。



写真2 郡上鮎（地域団体商標に登録）

また、急峻な流れと良好な水質に育まれた「郡上鮎（ぐじょうあゆ）」（写真2左）は、姿かたちの良さはもちろんのこと、身が締まり、香り、味とも評価が高く、2007年には河川産で唯一、地域団体商標に登録され（写真2右）、「郡上鮎」としてブランド化を進め、2008年には「清流めぐり利き鮎会」でグランプリを受賞し日本一おいしい鮎の名声を得た。

さらに、長良川（支川を含む）の豊かで清らかな水は、サイト内の約1万1千haの水田を潤し、米の生産に寄与している。長良川が運んだ砂壤土が深く堆積し、水はけが良く、果樹や野菜の生産に適した地域で、特に、長良川流域（旧本巣郡）が原産で、全国で最も多く栽培されている柿品種の「富有柿」の生産量は第3位となっている 8)。

《生計の保障》

鮎は、水産業だけでなく、地域の主要な観光資源でもある鵜飼や食文化とも深く結びついており、産業としてのすそ野が広い。県内の鮎の漁獲高は22億円、鮎釣り人から漁業協同組合が得る遊漁料は22万人から3億円で、長良川はこのうちの約半分を占めている 9)。鮎漁を見せる観光漁業ともいえる鵜飼は年間11万人で観

覧船収入が3億円(10,11)、流域の観光ヤナ全体では9万人が鮎料理を楽しんでおり(10)、養殖鮎の生産高11億円と合わせると9)、約40億円以上の「鮎産業」が存在している。

上中流4市(郡上市、美濃市、関市、岐阜市)の内水面漁業協同組合員数は15,399人で、全人口の2.7%を占め、全国の県平均の0.6%を大きく上回っており、長良川から収入や漁獲を得ている人々が特に多いことがわかる(12,13,14)。

また、上流の郡上市には、釣獲した鮎やアマゴを旅館や民宿に提供して生計を立てる者を職漁師と呼び、彼らは、漁の出来ない冬場などは、管理された里山で炭焼きなどを行うことで生計を立てていた。

2. 生物多様性及び生態系機能

《農林水産業の多様性》

<水産物>

長良川における内水面漁業の多様性は、海とのつながりにある。アユ(写真3)は、海で育った稚魚が川を上り、森が供給する豊かな水が流れる川で成長・成熟し、卵を産んで一年で一生を終えるという回遊魚である。また、アマゴの降海型で半年間伊勢湾で成長して春に川をさかのぼるサツキマス(写真4)、秋に繁殖のため海に下りるモクズガニ(写真5)なども貴重な漁獲対象となっている。

長良川の上流域は水温が低く、流れは急で、早瀬と淵が連続し、アマゴやイワナなど冷水域を好む在来マス類の生息域となっており、溪流釣の対象魚が多く生息している。また、中流域は水量が増え、河川形態は早瀬、平瀬、淵及び瀬(とろ)が組み合わさり、水温もやや高く、アユを中心に、ウグイ、オイカワ、アジメドジョウ等が生息している9)。

高所に源を発する長良川は、上流から下流へと流れる中で、多くの魚種を育み、漁獲対象種はアユ、イワナ、アマゴ(サツキマス)、ウナギ、ウグイ、オイカワ、コイ、ニゴイ、フナ、ドジョウ、アジメドジョウ、モロコ、ナマズ、ヨシノボリ、カジカ、テナガエビ、モクズガニの17種となっている12)。



写真3 アユ



写真4 サツキマス
【提供：アクアトぎふ】



写真5 モクズガニ

<農産物>

長良川(支川を含む)の豊かで清らかな水は、サイト内の約1万1千haの水田を潤し、主要品目である米の安定的な生産を支えている。特に「ハツシモ」は、岐阜県と愛知県のみで生産され、うち99%が岐阜県産で60年にわたり栽培されてきた伝統米である。さらに、幾度もの洪水によって運ばれた砂壤土が深く堆積し、水はけが良く、果樹や野菜の生産にも適した地域である。

現在、岐阜県の主要農産物の一つである柿は古くから栽培されており、平安時代に県南部の国司が干し柿を朝廷に献上したとの記録が残っている 15)。

また、渋柿から作られる「柿渋」は、渋柿のタンニンを主成分とした染料で古くから岐阜の特産品とされ、和紙の強度を増したり、漁網の腐食防止に使用されたことから、工芸品である美濃和紙と漁業と古くからの繋がりがあって柿栽培がおこなわれてきた。

明治に入ると、柿の生育に適した土地柄であることから、県をあげて栽培が奨励され、「富有柿」(写真6)は、その取り組みの中で見いだされた長良川流域原産の甘柿である。



写真6 富有柿



写真7 守口だいこん

長良川流域では、伝統野菜の栽培も盛んに行われており、全長が 1.5m になることもある「守口だいこん」(写真7)は、当地域では、明治に入ってから栽培が盛んとなり 16)、主に漬物として贈答用に利用されている(写真8)。「守口だいこん」は優良な形質を維持するため、種苗会社と連携し、種子を確保している。また、県の伝統野菜認証制度の認証を受け、ブランド化により栽培を維持する取り組みが行われている。

この他にも、伝統野菜に認証されている品目としては、「島ごぼう」「千石豆」があり、「島ごぼう」を使った「ごぼうめし」が郷土料理として引き継がれ、食文化の保存にも繋がっている 17)。

また、当地域の土壤に適した品目として、ほうれんそう、だいこん、えだまめ、いちご、さといも等 10 品目の野菜のほか花なども栽培され、多品目を周年出荷する集約的な生産が行われている。



写真8 守口漬

《生物多様性》

長良川流域の地形は、標高が 10m に満たない平野部から標高 1,700m を超える中央高地が存在し、気候は、暖温帯—中間温帯—冷温帯—亜高山帯の並びがあり、地形や気候の空間連続性が多様な生物の生息を可能にしている。

この豊かな自然環境のもと、流域にくらす人々は古くから山や水に感謝する思いを持ち、長良川では鮎を中心とした内水面漁業が営まれてきた。流域の住民に恵みをもたらすこの環境を持続させるため、市民や漁業協同組合による水源林育成、上流域のきれいな水を守る生活、鮎の遺伝資源の保存といった取り組みが行われている。

長良川流域の自然は、豊かな自然とそれを利用しながら維持する人々の努力もあって多様な生物が生息する環境が保たれている。

<植物>

森林率が非常に高いことが岐阜県の特徴で、長良川上中流域も80%を誇り(18)、林相としては、ツブラジイ、アラカシをはじめとする照葉樹林から、ブナ、ミズナラ、コナラなどの落葉広葉樹林、アカマツ、スギ、ヒノキなどの常緑針葉樹からなる亜高山帯林までがこの地域で見られる。

豊かな森林地帯は潤沢な降水を蓄えて山岳地帯から出る水を平野に流しており、豊かな河川生態系を形成している。

岐阜市内で里山の自然を残す達目洞(だちぼくぼら)には、金華山を水源とする清らかな水が湧き出して逆川(さかしまがわ)となり、この清流に環境省レッドリストに掲載されているヒメコウホネ(絶滅危惧Ⅱ類:写真9)が生育している。



写真9 ヒメコウホネ

<水生生物>

次に水生生物については、当地域は海に面しておらず、大きな天然の湖もないが、源流部から平野部の水郷地帯まで様々な水環境を有しており、冷水性の溪流魚から、温暖な環境を好む汽水魚まで多様な魚種が分布している。

特に、長良川流域には、太平洋から遡上するアユ、サツキマス、ハゼ類、カジカ類などの回遊魚のほか、国の天然記念物に指定されているネコギギ(絶滅危惧ⅠB類:写真10)も生息している。また、南部の平野部には、環境省レッドリストに掲載されているウシモツゴ(絶滅危惧ⅠA類:写真11)など小型の淡水魚にとって格好の住処となる河川やため池が残されている。



写真10 ネコギギ
【提供:アクアトトぎふ】



写真11 ウシモツゴ



写真12 オオサンショウウオ

また、両生類の多様性も高く、希少なオオサンショウウオ(国特別天然記念物、絶滅危惧Ⅱ類:写真12)、カスミサンショウウオ(絶滅危惧Ⅱ類)などの生息もみられる。

アユは回遊魚であるため生息域が広く、アユの生息域にネコギギやカジカなどの希少な魚類のほかオオサンショウウオなども生息している。アユは河川の上流から下流まで幅広い範囲を発育段階に合わせて利用しており、鮎資源の保護や河川環境の保全といった活動は、長良川流域に生息するさまざまな希少種の保全にも寄与している。

<哺乳類>

陸域に棲む動物類についても、亜高山帯から、丘陵帯、平野までの森林に応じた多様な哺乳類が生息しており、モグラ、コウモリ、ネズミの小型哺乳類や、ツキノワグマ、カモシカ（国特別天然記念物：写真 13）などの大型の哺乳類が数多く生息することは、豊かな自然環境を示すものといえる。



写真13 カモシカ

<鳥類>

鳥類に関しては、亜高山帯針葉樹林でコマドリやルリビタキが繁殖し、山地が平野部と接する里山ではオオタカ（準絶滅危惧：写真 14）、フクロウ、キジなど多くの鳥を見ることができる。また、河川流域では水辺の鳥が生息、繁殖している。長良川の下流域では、多くのカモ類等が越冬し、オシドリ、カイツブリなどの姿を見ることができる。



写真14 オオタカ
【提供：大塚之稔氏】

このように、当地域では、人と自然がうまく共生することで、多くの希少動植物（環境省レッドリストに掲載されている絶滅危惧 IA 類が 4 種、同 IB 類 19 種、同 II 類 63 種、準絶滅危惧 62 種）の生息を可能としている。

《生態系機能》

長良川の水質は、流域に 86 万人もの人口を抱えながら、日本三大清流のひとつに数えられるほどで、上流域で最もきれいと言われる AA 類型、それより下流で A 類型の環境基準を達成し 19)、長良川（中流域）として環境省の名水百選に選ばれている。

長良川の水質が保たれている理由としては、大日ヶ岳（標高 1,709m）の源流域から河口までを 166km で流れ下る急流であることに加え 20)、河川本流に沿って一定面積の農地・集落が続く地形から本流にダムがつくられなかったこと、豊富な伏流水による浄化効果も合わせ、水質が保たれていると考えられている。

さらにこうした自然的要因だけでなく、上流域にくらす人々のきれいな水を守る生活、中流域の環境美化活動によるものも大きい。

長良川の豊かな水は、山間部が降水量年間 3,000 ミリと全国屈指の多雨地域で 20)、上流郡上市は森林率 90%の豊かな森林（写真 15）を抱えていること、そして、市民や漁業協同組合による水源林の育成によるものである。



写真15 郡上市高鷲町から大日ヶ岳を望む

また、鮎が良く育つ川は、餌となる藻類が多く、なわばりを張れる水域と豊富な水量・水質、産卵に向く礫質の河川床、幼魚時代を過ごす海と川のつながりなどの多様な自然条件が求められる。長良川はこの点において、上流域では河川に大きな岩が多く、淵、浅瀬等変化のある流れがあり、中流域では小石が一面に河川床を埋め尽くしているなど、鮎の生育に適した条件が整っている。こうした良好な生息環境は流域の漁業協同組合の取組みによって維持され、持続的な漁業を営むことを可能にしている。

3. 知識システム及び適応技術

《知識システム及び適応》

<伝統漁法>

長良川の伝統的な鮎漁の技術として、「鵜飼漁」、「郡上釣り」、「瀬張り網漁」、「夜網漁」がある。

鵜飼漁は、鵜が視界に入る鮎を可能な限り捕えるため、他の漁法に比べ捕り逃しが少なく、漁場が淵に制約される網漁に比べ、船で移動することにより鮎のいる瀬でも漁ができるため、効率的に鮎が獲れる。また、鵜がくわえると鮎が一瞬で死ぬため、鮮度がよいのも特徴である。

鵜飼は現代では地域の重要な観光資源であるが、明治時代には1シーズンで約33万5千尾もの漁獲高があったと記録され、鵜匠の主要な収入源であった(21)。



写真16 郡上釣り



写真17 郡上竿

鮎は餌となる藻類を獲得するため、1平方メートルほどのなわばりを作る。他の鮎がなわばりに入ると体当たりで追い出そうとする。この習性を利用したのが友釣りであり、現在の日本の鮎漁における一般的な釣法である。この友釣りやアマゴ釣りなど長良川での釣り技術を総称的にとらえたものが「郡上釣り」(写真16)であり、全国の釣り師の間では名人技として注目されてきた。その技は、複雑な長良川の水の流れを読む観察力、竿や網など改良された釣り具、友釣りでかかった鮎を一気に引き抜く効率性を工夫、追求した技術である。これは、大正のはじめ頃、職漁師が多く釣るための知恵から生み出されたものである。また、

この郡上釣りは「郡上竿」(写真17)、「郡上ダモ」(写真18)といった道具を生み出し、今も郡上地域で伝統工芸品並みに珍重されている。郡上竿は、タメが効くように竿の胴は柔らかく、それでいて竹の反発力があるため、郡上釣り特有の掛かった鮎を一気に引き抜くことを可能とし、郡上ダモは、掛かった鮎



写真18 郡上ダモ

を瞬時に抜いて受けるため、柄と杵に角度を付けるなどの工夫が施されている 22)。

網を利用した長良川の伝統的な漁法に、「瀬張り網漁」(写真 19) や「夜網漁」(写真 20) がある。「瀬張り網漁」は、秋、産卵場に向かう鮎を瀬に張った網で驚かし、停滞したところを一網打尽に捕獲する漁法である。一方、「夜網漁」は、かがり火の明かりと櫂(かい)で船のへりをたたく音で鮎を驚かせ、川幅いっぱい仕掛けた網に鮎を追い込んでいく漁法で、中世末期から江戸時代初期にかけ上流域ではじまった漁法である。



写真19 瀬張り網漁



写真20 夜網漁

この他にも、川をさかのぼる習性のある魚種を獲る方法として、遡上中の魚を堰で箱に誘導して獲る「登り落ち漁」(写真 21) が長良川独自に行われてきた。また、逆に川を下る鮎を、川に設置した大きなすのこで獲るのが「やな漁」(写真 22) であり、長良川には5箇所(支線を含めると7箇所)のやなが秋に開設され、鮎料理を楽しむ人でにぎわっている。



写真21 のぼり落ち漁



写真22 やな漁

長良川から獲れる豊富な魚類は、海を持たない岐阜県にくらす人々に貴重なタンパク源をもたらしてきた。このため、漁獲方法は多彩でかつ、鵜飼漁をはじめ古い歴史を持つ。長良川の伝統漁法は、鮎の習性を把握し、その時々で最も効率的な漁法を生み出し実践され、これは、今でも漁協の組合員をはじめ、流域で河川漁業を営む人々によって引き継がれている。

また、長良川の鵜飼は 1883 年(明治 16 年)に不漁のうえに鵜の損失が重なるなどして翌年に向けた仕入金の調達が困難となる事態が起こり、こうした事態は翌々年の 1885 年(明治 18 年)にも起こった。このため、生計を不安定な漁だけ

に依存するのではなく、漁業とともに観覧に供する方法により、鵜飼漁の保護に取り組み、今日まで引き継がれてきた 21)。

<鵜への配慮>

鵜飼は鵜匠と鵜のコミュニケーションが不可欠であり、「鵜」という漢字が「弟」に「鳥」と書くように鵜匠家では、20羽以上の鵜が家族同然の存在として年中一緒に生活している。鵜の健康に配慮し、十分な給餌を行うことはもちろんのこと、鵜匠は毎日、鵜の顔を見て、匂いを嗅ぎ、喉や腹を触りながら鵜と語り合うことで、鵜の体調を把握している。鵜の給餌は、その日の体調、鵜飼に連れて行く鵜か否かなどを判断しながら、一羽ずつ丁寧に行っている。

このように、鵜匠家で大切に飼育されている鵜は、野生の鵜が7年程の寿命であるのに対し、20～25年の寿命であることに加え、死亡した鵜は感謝の意を込め丁寧に供養されている。

鵜飼の際、「首結い」（鵜匠が麻の繊維を撚った紐）で鵜の首を結び、鵜による採捕をコントロールしている。鵜匠は鵜の体調、性格、川の様子などを総合的に判断し、鵜飼に連れて行く鵜を10羽から12羽選び、鵜ごとに「首結い」の結い加減を調整している。この調整によって、大きな魚は首で止まり、鮎より小さな小型魚は首を通して鵜が食べることが出来る。

このように人と鵜が良好な関係で共生できるのは、先人から代々伝えられてきた知恵と工夫によるものである。

<資源確保>

長良川流域にくらす人々にとって重要な鮎資源であるが、鮎資源を持続的に確保するためには自然まかせではなく人の力添えが必要なため、現在、流域の漁業協同組合が中心となり、鮎資源の確保に努めている。

漁業権を持つ漁業協同組合は、漁獲対象種（正確には漁業権魚種）を増やす義務を負っており、岐阜県全域で毎年120トン（1,000万匹）の稚鮎を放流している。そのおよそ半分は、河川で採捕された天然鮎を親に用いて（一財）岐阜県魚苗センターで育成した稚鮎である。この稚鮎は、天然鮎と同じ遺伝的特性を持ち、冷水病に強いいため、この種苗を放流することは、鮎の遺伝的多様性の保全や冷水病対策にもつながっている。また、最近では、天然鮎資源を増やすための取り組みとして、流域の漁協等が協力し河口域における「人工孵化放流」（写真23、写真24、写真25）を年1億粒の規模で実施している。



写真23 鮎の受精



写真24 鮎の人工孵化放流



写真25 鮎の受精卵

資源確保の歴史をさかのぼると、1880年（明治13年）には岐阜県から遡上鮎の捕獲期間制限が出されており、漁業資源確保の行政指導が行われていたほか、1915年（大正4年）には漁協の前身組織である長良川水産組合による鮎人工孵化放流事業が始まっている 9)。

漁業資源を守る取り組みは、漁業関係者だけでなく林業関係者においても行われ、長良川沿いの森 4.5ha を「魚つき保安林」として指定し、水生昆虫の餌となる落ち葉などの供給、樹木や下草が地表を覆うことによる水質の濁り防止、水面へ木陰をつくることによる水温上昇抑制など、魚の良好な生息環境の維持・保全に寄与している。また、本県の「魚つき保安林」の面積は、海なし県（8県）で一番広い面積を指定している。

<土地の特性を活かした農産物>

長良川流域では、水はけがよく肥沃な砂壤土の特性を生かし、だいこん、えだまめ等が栽培され、品目を選びつつ、作型・品種・栽培方法を駆使することにより、一作物で半年間に近い出荷期間を実現している。この農法により市場での評価を高めるとともに、都市近郊農業に必要な収益性の向上につなげている。例えば、えだまめは、現在 15 品種が導入され、栽培時期に応じて早生、中生、晩生品種を選定するとともに、茶豆風味、黒豆などバラエティに富んだ食味の品種を選定し、これに、保温や病害虫防除のための被覆資材を組み合わせることで、5月～10月までの半年間にわたる出荷を可能としている（写真 26）。



写真26 えだまめ生産（岐阜市内）

4. 文化、価値観及び社会組織（農文化）

《文化と価値観》

<鵜飼>

鵜飼は、古くは 700 年代に当時の戸籍で「鵜飼部（うかいべ）」の記載がみられる。長良川鵜飼（写真 27）は、既に室町時代から現在とほぼ同じ漁法で鵜飼が行われていたことが史料からわかっており、長い歴史を持つ 21)。長良川には岐阜市の「長良鵜飼」と関市の「小瀬鵜飼」があり、この 2 つを総称して「長良川鵜飼」と呼ばれている。全国 12 か所で行われている鵜飼の中で、長良川鵜飼の鵜匠だけが明治以来、宮内庁より「宮内庁式部職鵜匠」に任命されている。長良川の鵜飼は貴重な漁法であり、「長良川鵜飼用具」一式が国の重要有形民俗文化財に指定されているほか、長良川の鵜飼漁は県の重要無形民俗文化財に指定されている。また、現在、国の重要無形民俗文化財の指定を目指し、調査を継続的に行っている。



写真27 長良川鵜飼

<食文化>

鵜匠家には、魚と塩とご飯を用いて発酵させる「鮎鮓」（写真 28）が伝承され、年末年始の贈答用に今も製造されている。鮎鮓は平安時代の「延喜式」に記述がみられ当時から鮎鮓が製造されていたことがうかがえる。また、うるかと呼ばれる鮎の卵や内臓の塩辛、鮎一夜干しなども郷土料理として今に伝えられている。



写真28 鮎鮓

流域には鮎甘露煮等を作りとし 100 年以上続く鮎専門の老舗が6軒あるほか、1908年（明治41年）の考案と言われる鮎菓子（写真 29）は、鮎をモチーフに薄く焼かれたカステラ生地にも柔らかな求肥を包んだ岐阜の銘菓で岐阜ほど多くの種類の鮎菓子がある地域はないとも言われている。鮎菓子はふるさとを自慢の鮎で紹介することができることから、お土産物として愛用されている（23）。



写真29 鮎菓子



写真30 朴葉すし

「朴葉すし」（写真 30）は朴の木の葉に酢飯と山菜、川魚を乗せた岐阜を代表する郷土食である。岐阜では家の庭先や畑などに朴の木が植えられ、農・林作業時の野外食として手軽に食べられるように考案されたものであり、近年では朴葉の殺菌効果も知られるようになった。

<水の信仰と鮎への思い>

長良川源流域の森林が保全されてきた文化的な背景としては、8世紀に起源を持つと言われ、源流の大日ヶ岳に連なる白山を水の分配を司る水分神（みくまりのかみ）として崇める「白山信仰」があげられる（25）。717年創建とされる郡上市の長滝白山神社においては、「長滝の延年」（国重要無形民俗文化財：写真 31）を含む「六日祭り」が行われ、白山信仰にまつわる数種の神事芸能が行われる（26,27）。同じく郡



写真31 長滝の延年

上市内にある「阿弥陀ヶ滝」（岐阜県名勝）は白山信仰の滝行の地ともなっているが、葛飾北斎の諸国滝廻り8図のうちのひとつに描かれるほど荘厳で美しく、現代では日本の滝100選に選定されている（28）。

郡上市では、江戸時代に士農工商の融和を図るために催したのが始まりとされる日本三大盆踊りのひとつ「郡上踊」（国重要無形民俗文化財：写真 32）も流域の文化として著名である 29）。

その郡上踊では、

『お国ナ自慢にゃ 肩身が広い 郡上踊りに 鮎の魚（曲名：かわさき）』
『鵜飼の篝火あかあかと 世にも名高き長良川（曲名：まつさか）』

と長良川や鮎を自慢する歌詞が入っている。

また、中流岐阜市の葛懸（かつらがけ）神社では 12 月に川でみそぎを行う「池ノ上みそぎ祭」が行われている。

こうした信仰や祭・踊りを通じて、長良川流域では古くから山と水が大切にされてきた。上流の郡上市には長刀清水（なぎなたしみず）、水上神社等水を祭る社等があるほか、水を大切にする精神が水舟などの伝統的水利用施設と共に引き継がれ、名水百選の「宗祇水（そうぎすい）」（岐阜県史跡）はその象徴的な存在である 30）。



写真32 郡上踊

《社会組織》

長良川の鵜飼は、江戸時代、幕府や尾張藩の保護を受け、1890 年（明治 23 年）から鵜匠は宮内省に所属した。その技術は各鵜匠家で受け継がれ、先代が引退してはじめて鵜匠に任命される 21）。現在、宮内庁より「宮内庁式部職鵜匠」に任命されているのは、全国で長良川の鵜匠（岐阜市長良 6 名、関市小瀬 3 名）のみである。

鵜匠に求められるのは、鵜を操る技術だけでなく、その日の漁に最適な鵜を選ぶ判断力、船上において複数の動作を瞬時にこなす機敏な動き、鵜の引く力を操る相当な体力と集中力が重要である。また、鵜舟一艘に鵜匠と二人の船頭（艫乗り、中乗り）が乗り込むチームとなっており、「人・鵜・舟」一体の動きが鵜飼漁の本質を成し、これは今日に至るまで継承されている。

漁業資源を守る組織として漁業協同組合がある。内水面漁業は、漁業資源が枯渇することのないよう、漁業権を持った漁業協同組合に資源の増殖活動を行うことが漁業法で義務付けられている。長良川流域には 8 つの漁業協同組合（長良川流域で岐阜市より下流を含む）が存在し、鮎等淡水魚の繁殖活動や、釣り場環境の整備に努めるとともに、良好な河川環境を保つための活動が行われている。さらに、放流や鮎を食害するカワウ対策を実施するなど、持続的な生産と資源確保の管理を担っている。

長良川の豊かな水は、上流域の森林によって生まれ、上流域の農地付近に広がる原野、森林は、農業の唯一の肥料、家畜の飼料、屋根ふき用の萱、薪炭などの供給地として多目的に利用されてきた。これらの山野は「入会地」（一定の地域の住民が特定の権利をもって一定の範囲内の森林原野に入り共同利益に供する土地）とし

て共同管理されてきた 31)。

現在、森林資源の保全是、森林組合が中心となって担っている。森林組合は長良川流域に 3 組合存在し伐採作業だけでなく、植林・間伐事業も実施している。

5. 優れた景観及び土地と水資源管理の特徴

《優れた景観》

郡上市では、広くても数キロ幅の河川床に農地と住宅が連綿と連なる農村風景（写真 33）が続き、夏には鮎釣りを楽しむ人が川面を埋め尽くしている。釣り以外にも、支流吉田川に飛び込む子供や、近年人気となっているラフティング、シャワークライミングなども長良川の風物詩となっている。

長良川流域では、川の恵みを受け、川と親しみ、川に寄り添う農村風景が人々に安らぎを与えている。



写真33 長良川流域の農村風景

また、岐阜市では、岐阜城跡（国史跡）を含む金華山、長良川、鶯飼屋地区、川原町地区、旧城下町地区 331.9ha の生活・生業に根ざした景観が「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として、国の重要文化的景観に選定されている。

このほかにも、名水百選には郡上市の湧水「宗祇水」と「長良川中流域」が、日本の棚田百選には郡上市の「正ヶ洞棚田」が 32)、日本の水浴場 88 選には長良川水浴場が河川で唯一選定されるなど、水が織りなす素晴らしい風景がつながっている。

《土地と水の管理》

< 森を育てる取組み >

安定的な農産物生産や豊かな漁獲につながる河川水を保全するシステムは、まず、森づくりから始まる。漁業協同組合や森林組合等が長良川源流の森育成事業（写真 34）として行っている広葉樹の植林活動や、中流岐阜市の住民が上流の郡上市、関市、山県市で造林事業などの水資源涵養や森林保全といった取組みを行っている。

また、水源管理の特徴的な森林施業方法としては、森林土壌の保水を高めるため、地域内で年間約 3,000ha の間伐が行われている。



写真34 長良川源流の森育成事業

<水を大切に利用する精神>

最上流の郡上市では、水を大切にするとともに、下流にきれいな水を届けるといった精神が受け継がれ、山水や井水、河川などの多様な水源を近世期から受け継がれてきた伝統的水利用施設を用いて、効果的に利用する営みが行われてきた 26)。河川や谷川の自然系の流れを使用する水路に設けられる洗い場があり、これらは「カワド」「水屋」等と呼ぶ（写真 35）。山水を複層の箱状のものに引水し、段階的に使用するものを「水舟」（写真 36、37）、湧水を地面に埋めた水舟で使用するものを「清水（しみず）」と呼び、代表的なものとして環境省名水百選に選ばれている「宗祇水」（写真 38）がある。また、地下水を汲み上げて使用する井戸には「個人井戸」「仲間井戸」「共同井戸」等があり、その中で共同井戸は井戸組合により維持管理されている。



写真35 カワド



写真36 水舟



写真37 水舟



写真38 宗祇水（岐阜県史跡）

水舟は郡上市八幡町市街地に 11 箇所あり、その水槽は 2～3 段程度の箱型をなしている。上段は飲料水、中段がすすぎ、下段が洗い水に使われ、水を無駄にせず、下流にきれいな水を届けるための知恵として今も使われている。

40 万人都市の岐阜市の上水道は、金華山のふもとにある地下式の「鏡岩配水池」をはじめとする 69 本の井戸からくみ上げられた地下水、伏流水が利用されており、旧厚生省の水道水のおいしい都市（全国 32 市）に選ばれるほどである 33)。長良川から、生活水や景観で長良川の恵みを受けている一般市民・NPO・企業等による環境保全活動も数多く実施されている。

<伝統的防災システム>

長良川は、中下流域で幾多の水害を起こしてきた。このため、中流域での「霞堤」、下流域での「輪中堤」など堤防を活用した特殊な防災システムが発達してきた(図1)。このうち、霞堤は堤防に隙間を作り、そこから洪水を入り込ませて、川の氾濫を防ぐもので、美濃市、関市に現存している(34)。



図1 伝統的防災システム

II. 農業システムの管理に関連した社会的・文化的特徴（任意）

《社会的や文化的特徴》

長良川流域には水が深く関わる伝統工芸技術が伝えられている。和紙の生産に欠かすことができない楮（こうぞ）ときれいな水を確保できる美濃市では、日本三大和紙に数えられる「美濃和紙」が今も伝えられ 35)、その中で「本美濃紙」は 2014 年 11 月にユネスコ無形文化遺産に登録されている（写真 39）。美濃和紙は、和傘のほか、同じく伝統工芸品である岐阜提灯、岐阜うちわにも使われている。



写真39 本美濃紙の紙漉き

郡上市の「郡上本染（県重要無形文化財）」は、色彩を鮮やかにするため厳冬期に長良川の支流吉田川で行われる寒ざらしが冬の風物詩になっている。

長良川流域は町並みにも特徴があり、川を利用して運んだ木材や美濃和紙の陸揚げ地であった地名が残る岐阜市湊町には、当時の建築様式を残す木材問屋などが軒を並べる。郡上市八幡町北町では、町屋と湧水をいかした水利施設が城下町の風情を今日に伝え、また美濃和紙の産地を背景に商家が立ち並ぶ美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区は、「うだつ」（火事の際の類焼を防ぐため屋根の両端に作られた防火壁）の上がる町並み（写真 40）として知られ、いずれも国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



写真40 うだつの上がる町並み

III. 歴史的な重要性

《歴史的な重要性》

< 鵜飼と鮎 >

鵜飼、鮎を食べる文化の歴史は俳聖松尾芭蕉の句に当時を知ることができる。1688 年岐阜を訪れた芭蕉は、次のような句を残している。

おもしろうて やがてかなしき 鵜舟かな
またやたぐひ ながらの川の 鮎なます

当時から、鵜飼が旅人にとって魅力的なイベントであり、鮎の食べ方も今日的な塩焼きではなく酢を使用したなますで食されていたことがわかる。

また、芭蕉の時代をさかのぼり、1603 年、美濃国奉行が将軍徳川家康に鮎鮓を献上した記録があり、保存性のある発酵食品としての調理がなされていた。現在は鵜匠家で作られる料理や土産物として製造技術が伝承されている 36)。

岐阜市内の老舗問屋に明治創業当時の写真が残されており、その店頭の様子から守口漬、鮎粕漬が岐阜の名物であったことが伺われる（写真 41）。守口だいはもともと漬物向けの品種であるが、鮎もまた漬物の技術を活用して提供されていた。このほかにも伝統的な鮎の調理方法としては内臓を塩漬にした「うるか」も酒

肴として珍重されている。なお、看板から団扇（うちわ）も特産であったことがうかがえる。これは、甘柿生産が始まる以前に栽培されていた渋柿からとった柿渋を塗った耐久性のあるもので、実用品として定評があった。



写真41 泉屋物産店（明治時代）

近代に入り、道路網が発達し、鮎を鮮魚商材として市場に出荷することができるようになった。1910年ごろ大正時代には郡上鮎の名で出荷されていたが、当時は製氷技術がなく、冬場に水田で作った氷を保存し、夏の出荷に使っていた。郡上鮎の出荷システムは全国で唯一の河川産天然鮎の共同出荷するシステムである(37)。こうした流通技術の発達により、現在では鮎料理と言えば、香魚と言われる由来の独特なスイカに似た香りを楽しめる塩焼きが主流となっている。

<清流が育んできた文化>

美濃の国は豊かな土地とされ、伝統工芸品や林材、刃物が特産であった。美濃和紙を利用した、岐阜和傘（写真42）、岐阜提灯（写真43）のほか、上流郡上市の郡上本染などは、何れも諸説あるが400年前後の歴史を持つ(25, 38)。



写真42 岐阜和傘



写真43 岐阜提灯

長良川の漁業と工芸技術は岐阜の産業を支え、これらは長良川の清流とともに生まれ、清流が守られてきたからこそ、継承されてきたものといえる。

長良川中流域では、16世紀、織田信長の時代に、現在の岐阜市に川湊（かわみなと）が整備され、水運を利用した材木市場が発展していた(35)。

水源林を守る活動の歴史も古く、江戸時代に上流の郡上藩では自由な伐採を禁じ植林を進め、水源を涵養する「水根山（みずねやま）」を設けるなどの活動が行われてきた(35)。近代に入ってから、戦前戦後の木材需要により森林伐採が進み土地が荒廃したため、再造林がおこなわれ、現在の森林資源となっている。

IV. 現代的な重要性

《気候対応、炭素貯留》

鮎は一生が一年のいわゆる年魚であり、さらに流速のある河川で生育するため洪水などの影響を受けやすく、遡上数や漁獲量の年変動が大きい。このような生態的な特徴を持つアユの安定的な漁獲量と資源確保のため、アユの資源の変動要因に関する研究に取り組んできたところ、近年、鮎の遡上数と稚魚の時期に生息する海的环境の間に相関があることが明らかになりつつある。今後も鮎の生態と環境との関わりについて鋭意研究に取り組むこととしている。この成果は東アジア地域に生息する鮎の保全に広く活用できるものである。

二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を主たる要因とする地球温暖化が急速に進行する中、岐阜県では、平成 20 年 7 月に「岐阜県地球環境の保全のための森林づくり条例」を制定し、森林が有する二酸化炭素の吸収作用を維持し、又は向上させるため、森林づくり活動を推進している。上流部郡上市では 49,560ha の森林（人工林）において除伐、間伐を行い適正に管理することで、年間 235,977 t の CO2 削減に寄与している 39)。

《水、土地及び生物多様性の保全》

鮎の生育条件を整えることは、オオサンショウウオ、ネコギギ、カジカなどの長良川に生息する希少生物の保全にもつながっていると考えられ、NPO等による観察が続けられている。また、小川や湖沼に棲むウシモツゴは、水田営農と深い関係があり、土地改良区や子供会等での保護活動が進められ、環境教育の場としても大きな役割を果たしている。

岐阜県では化学合成農薬等の効率的な使用と節減に取り組む「ぎふクリーン農業」を推進しており、中流域の岐阜市では、耕土が深い砂壤土を生かした守口大根の生産について、有機質資材や防虫ネットを活用し、化学肥料と化学合成農薬を慣行の30%以上削減する環境にやさしい農業に取り組んでいる。

また、最上流域のひるがの高原では、だいこんやにんじんを栽培する際、クリーン農業の取組みに加えて、畝間の麦蒔きや沈砂池の設置等により、土壌流亡対策を講じるなど水を汚さない知恵が息づいている。

さらに、将来の岐阜県を担う子どもたちを対象に、森や水環境に関する学習活動などを行う「緑と水の子ども会議」が2013年には県内78の学校で開催され、地域に愛着を持ち、地域の将来を支える行動が出来る人材の育成に取り組んでいる。

このほか、NPO等地域住民による河川清掃・環境調査活動や、都市部岐阜市内にある鮎の産卵場の市民観察会を通じて、鮎の資源保護と環境意識の向上につながっている（写真44）。



写真44 長良川清掃活動

《社会的貢献》

内水面における漁業は、海面と比較して漁場の規模が小さく、採捕によって水産資源が枯渇しやすい。このため、漁業権をもった漁業協同組合が資源の増殖活動を行っている。長良川流域においても漁業協同組合によって鮎等淡水魚の繁殖活動や、釣り場環境の整備が行われ、良好な河川環境が保たれている。

また、鮎を育むためには良質で豊かな水が必要との認識から、漁業協同組合等により水源林の育成活動が行われている。

V. 脅威と課題

《危機・課題》

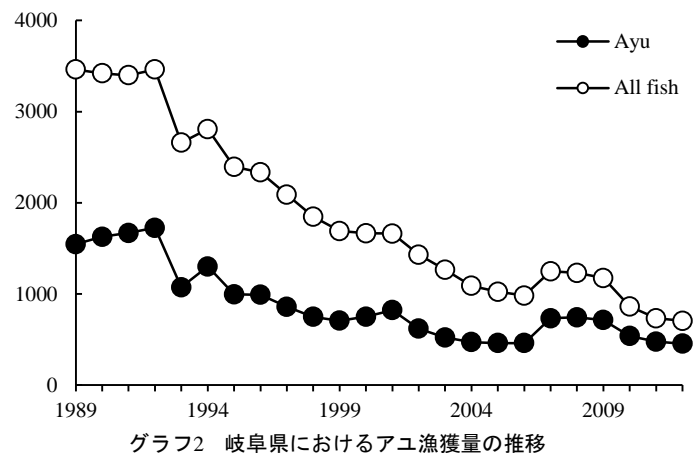
<鮎資源の減少>

鮎の河川漁獲量は減少傾向（グラフ2）にある。この理由としては、冷水病などの病害の広がり、カワウによる食害など、様々な要因が指摘されている。

【 鮎が少ない → 鮎が釣れない → 鮎・川への関心の薄れ、消費の減退 】

という負の連鎖に陥らないよう、鮎の増殖対策、遊漁者確保対策、病害対策、消費拡大対策を今後とも総合的に進めていく必要がある。

合わせて、一般市民が水や鮎、環境や景観、歴史文化等、当たり前のように感じている長良川の恵みについて日頃から実感し、触れ合える機会を行政、関係団体が提供していくことが重要である。



グラフ2 岐阜県におけるアユ漁獲量の推移

<鮎文化の創造と発信>

日本では食生活の欧米化に伴い、魚離れが指摘されている。このため、岐阜市内で鮎の加工品を扱う老舗問屋では、鮎料理の定番である甘露煮や塩焼きにとどまらず、鮎を食材とし現代的な調理方法を組み合わせた新たな地域おこしも始まっている。

例えば、鮎の内臓をリエット風に仕上げた「鮎のリエット」、鮎の熟れ寿司のご飯部分をサワークリームなどと和えた「鮎の白熟クリーム」を新たに開発し、2013年に観光庁が主催する「世界にも通用する究極のお土産フォーラム」で「究極のお土産」9品に認定された。

また、鮎釣りを楽しむ文化の継承のため、漁業協同組合では、子供たちを対象とした釣り教室の開催などによって釣りに接する機会を提供している。さらに、岐阜県は、学習機能、体験機能、情報発信機能を併せ持った河川漁業を学べる施設「長良川あゆパーク（仮称）」の建設を進めている。

<伝統的漁法・技術の継承と担い手>

鵜飼は、長良川や長良川の鮎を地域外の人々＝観光客に知ってもらえる重要なものであり、将来にわたって存続・発展させていかなければならない。長良川の鵜飼は、鵜匠と鵜だけで成り立っているのではなく、様々な周辺技術の集大成でもある。例えば、鵜舟や鵜籠（うかご）は伝統の技を持つ専門の職人により作られており、他に用途のない特注品であるため、鵜飼を伝えていくためには、同時にこの周辺技術の継承も必要である。いずれの職人も県内に1名しかおらず高齢となっており、技術の伝承や後継者育成が急がれている。なお、鵜飼に使用する鵜は、他のほとんどの鵜飼の開催地を含め、ウミウを茨城県日立市の海岸で捕獲しているが、この捕獲方法の伝承も課題となっている。

鵜舟・観覧船：

鵜飼の観覧船（写真 45）は岐阜市では市営の造船所、関市では寺社建築を手がける工務店が製造しているが、鵜匠の乗る鵜舟（写真 46）は、漁業用の川舟を作る船大工が製造する。材料にはいずれも岐阜県産コウヤマキが使われる。一般的にはスギが多いが、美濃地方は良質なコウヤマキが手に入るため、水に強く、軽く、よくしなうコウヤマキが使われる（40）。鵜匠の鵜舟は美濃市の船大工が製造してきたが高齢のため、この船大工のもとで修行を積んだ郡上市在住の船大工が数年前より製造を担っている。1人前になるのに10年と言われるため、次の代の後継者育成が課題である。



写真45 観覧船



写真46 鵜舟

鵜籠：

鵜飼に使う鵜籠には、4羽の鵜を入れる「ヨツザシ」（写真 47）、2羽の鵜を入れる「フタツザシ」、鵜が吐き出す鮎を入れる「吐け籠」、鵜を寝かせておく「鳥屋籠（とやかご）」（写真 48）があり、いずれも地元産の淡竹（はちく）



写真47 ヨツザシ



写真48 鳥屋籠

で作られている。鵜籠は現在日本で作られる竹製品の中でもかなり大型のものであり、関市の職人が唯一の作り手として、岐阜県の長良川鵜飼・小瀬鵜飼、愛知県の本曾川うかごの他、京都や山口の鵜籠も手がけてきた。関市の職人が引退したことに伴い、長く後継者がいなかったが岐阜県立森林文化アカデミーが継承に取り組み、同アカデミーの卒業生らが美濃市で鵜籠の制作を行っている。

和傘の骨を受ける部品「傘ロクロ」（写真 49）を作るのは全国に岐南町の木工所 1 軒しかない 41）。材料は岐阜県産のエゴノキで、和傘用に適した寸法のエゴノキを収穫して納品する業者も下呂市に 1 軒のみ存在したが、平成 24 年に亡くなり材料供給が途絶えた。岐阜県立森林文化アカデミーが美濃市内で良材を発見し、美濃市の林業関係者や日本全国の和傘職人とともに、毎年必要な本数を収穫する「エゴノキ・プロジェクト」を平成 25 年より実施している。同アカデミーでは長良川が育んだ伝統工芸を継承するため、傘ロクロや傘張りの後継者も育成している。



写真49 傘ロクロ

こうした木材加工にかかる技術の継承については、林業関係者、文化・工芸関係者が一体となって取り組んでいく必要がある。

一方で、木材の価格水準は低迷し、間伐などの管理作業を森林所有者の自助努力に委ねて進めることは困難な状況である。このため、林内路網の整備をはじめ、施業の低コスト化による採算性の向上に取り組んでいるほか、県産材の競争力を高めるため、製材施設の整備や性能表示制度など木材の付加価値向上対策を進めているところである。

価格の低下は木材に限らず農産物でも同様の傾向にあり、農業の担い手が減少している。このため、県、農業協同組合が中心となって農業に関心がある人のための体験研修や、本格的に就農を目指す人のための研修制度を農家と一緒に取り組んでいる。

<水と資源の確保>

地球温暖化に伴う気候変動、人口の増加、開発途上国の経済成長に伴う水需要の増加に伴い、世界の約 7 億人が水不足の状況にあると言われ、今後さらに進行することが予想される。森を育てることから始まる長良川流域のコンパクトな水循環システムを国内外に発信し、安全で安定した飲料水の確保、食料生産のための水の確保、安定した水産資源の確保、生態系の保全に貢献していくことが重要である。

VI. 実際的な考慮

a) 現行の GIAHS 推進活動

長良川の上中流域にある 4 市と、農林漁業等関係団体、県が参画し協議会を設立し、GIAHS 認定に向けた周知活動に鋭意取り組んでいる。

また、県、郡上市、漁業関係者により、鮎、漁業、森川海等に関する学習や釣り体験、情報発信機能を備えた「長良川あゆパーク（仮称）」の建設構想が進められており、GIAHS の拠点施設としての活用も期待される。

b) GIAHS の持続可能性と管理のための可能性と機会

県、関係市、農林漁業等関係団体で構成する GIAHS 申請のための協議会を継続・発展させることにより、各組織協働による保全活動の実施や情報交換、環境保全の状況を把握し、農林水産業者、NPO 等市民、企業等とともに清流を将来に伝

えていく推進母体とする。

c) GIAHS の期待される社会と生態系への影響

長良川は、降水量や地形等の自然条件に加えて、生産活動とくらし、環境保全活動により清流が保たれている「里川」である。鮎の一生を象徴する「森・川・海のつながり」のフレーズとともに、長良川の持続的な農林水産業のシステムを「長良川システム」として GIAHS に登録し発信・普及していくことで、河川を中心とした水循環や持続的な食料生産につながるものと期待される。

長良川の河川工作物は、鮎等の遡上を妨げないよう魚道を設置するなど、魚類等の生息に配慮している。

河口付近の長良川河口堰には、3種類5箇所の魚道が設置され、稚鮎遡上の時期に魚道で毎日ビデオ録画を行い、遡上個体数の計測を実施し、直近10年（2005－2014）の平均で約94万尾の遡上を確認するなど、魚類等への影響を継続的にモニタリングしている。

また、稚鮎が岸側を遡上する習性と流れに向かって泳ぐ習性を利用し、左右岸の魚道に稚鮎を誘導するため、河岸寄りのゲートから流下量を増加させるようゲート进行操作するなど、稚鮎に配慮した運用を行っている。一方、仔鮎の下降期には、鮎の産卵・ふ化情報を踏まえて、河口堰のゲート操作を行い、流量を増やすことで、速やかに仔鮎が降下できるよう配慮している。

水質の改善を図るため、できるだけゲートを開けることとしており、年間140回程度、夏季においては4日に3回開けている。

鮎が生息する地域は、世界的に見て日本、韓国、中国、台湾等の東アジア地域であり、本サイトが世界農業遺産に認定され、世界に向け発信することによって、これら東アジア地域における種・環境の保護や、安定的な食料確保にもつながるとともに、鵜飼をはじめとする伝統文化・工芸技術等の後継者育成につなげていける機会となりうる。

d) 地域住民、地域・国家当局及び他の関連するステークホルダーの動機

清流を守り、活かすために、農林水産業関係者、地域住民などによる水源の森づくりや河川清掃活動など水環境保全の取り組みが続けられている。岐阜県では2回目の開催となった平成18年の全国植樹祭、全国初の河川開催となった平成22年の全国豊かな海づくり大会、平成27年に開催が予定されている全国育樹祭や、平成26年に「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議において「清流の国ぎふ憲章」が策定されるなど、県民の「清流」に関する意識は高まりつつある。

岐阜県では、こうした意識の高まりを受け、平成24年に「清流の国ぎふ森林・環境税」を導入し、市町村や各種団体等による保全活動を積極的に支援するとともに、平成25年には「岐阜県水源地域保全条例」を制定し、水源の保全を図る取り組みを進めている。

関係市や生産者団体は、農林水産物の加工品開発など付加価値向上を図り、これ

に対して県は、国等交付金を活用しつつ支援するとともに、鮎をはじめとする流域農林水産物の海外輸出や海外誘客に引き続き取り組んでいく。合わせて、協議会をベースとして、流域関係団体が一体となり、農林水産物だけでなく観光や商工業も含めた「長良川ブランド」の活用についても検討していく。

VII. GIAHS 認定後の活用・保全計画（アクションプラン）の概要

1 推進体制

長良川の上中流域にある4市と、農林漁業等関係団体、県が参画した「清流長良川の農林水産業推進協議会」が世界農業遺産認定申請の推進主体となる。また、世界農業遺産認定を契機とした今後具体的な活動は、同協議会の構成団体、清流長良川の農林水産業プレイヤーズ等が連携しつつ下記の方針で進めていく。

2 アクションプラン

(1) 農林水産業の振興

- ・流域の関係自治体や関係団体が一体となって、県が商標登録した「清流の国ぎふ」の活用や、農林水産物・加工品から観光資源まで幅広く「長良川ブランド」として打ち出していくなど、新たな産業振興策を展開していく。
- ・鮎を中心とした内水面漁業の振興を図るため、放流種苗の安定供給、病害対策、遊漁者増加対策に継続して取り組むほか、交流拠点施設「長良川あゆパーク（仮称）」の構想を進め、当サイトの情報発信拠点としても活用していく。
- ・長良川うかいミュージアム（岐阜市長良川鶉飼伝承館）において展示や講座の開催などを通じ、長良川鶉飼文化を後世に継承し活用される取り組みを進める。
- ・現在、県産農産物は東南アジアを中心に飛騨牛、富有柿やいちごが輸出されている。今後は、環境の素晴らしさをバックグラウンドとして販売戦略を展開するとともに、新たに鮎の輸出についても取り組んでいく。
- ・また、アジア固有種である鮎の資源保護や釣法の普及など、アジアでの国際的な取り組みを展開していく。
- ・平成27年予定の全国育樹祭、導入済みの森林・環境税や水源地域保全条例等を通じ、森林の役割をPRするとともに、間伐や林道整備、製材・バイオマス施設整備など振興策を引き続き実施していく。

(2) 観光業の振興

- ・鶉飼やラフティングなど長良川の観光資源を前面に出しながら、郡上踊等の伝統文化や、農林漁業体験を楽しむグリーン・ツーリズム、流域外の世界遺産白川郷や飛騨高山と組み合わせた誘客促進、海外からの観光客受け入れ態勢の強化を進めていく。

(3) 文化の振興

- ・伝統工芸や景観、地域芸能など長良川流域の資源が登録あるいは申請しようとしている各種制度と連携しPR活動を行うとともに、後継者育成につなげていく。

(4) 環境の保全

- ・環境保全団体等や市民、企業、行政が連携を図り、環境保全活動を活発化するとともに、「清流の国ぎふ憲章」の策定・普及等を通じて、長良川の環境面の重要性を県民に啓発していく。

参考文献

- 1) 第 69 回河川整備基本方針検討小委員会 (2007) 「資料 2-2」
- 2) 環境省 (2001) 「日本の水浴場 88 選」
- 3) 西田睦 (1990) 「アユの分布とリュウキュウアユ」水産増殖 200-203 .
- 4) 鈴木敬二 (2014) 「2014 鮎釣り」『台湾鮎復活の経緯』つり人社 168-170 .
- 5) 農林水産省 (2014) 「漁業・養殖業生産統計年報」及び「作物統計調査(果樹)」
- 6) 環境省 (2003) 「レッドデータブック」
- 7) 国際連合開発計画 (2006) 「人間開発報告書 2006」
- 8) 農林水産省 (2013) 「特産果樹生産動態等調査」
- 9) 岐阜県 (2014) 「岐阜県の水産業」
- 10) 岐阜県 (2013) 「岐阜県観光入込客統計調査」
- 11) 関市 (2013) 「統計書」
- 12) 岐阜県 (2014) 「河川漁業動態調査」
- 13) 総務省統計局 (2010) 「平成 22 年国勢調査」都道府県・市区町村別主要統計表
- 14) 農林水産省 (2008) 「2008 年漁業センサス」内水面組合員数 (1) 正・准別組合員数
- 15) 秋元浩一 (2000) 「千年の歴史の味、堂上蜂屋柿」(株)新農林社 16-17 .
- 16) 東海農政局一宮統計情報出張所 (1980) 「守口だいこん」2 .
- 17) 岐阜県 (2008) 「飛騨・美濃伝統野菜」
<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/kakiyasaikaju/dentoyasai/>
- 18) 岐阜県 (2014) 「岐阜県森林・林業統計書」
- 19) 岐阜県 (2013) 「環境白書」129 .
- 20) 国土交通省河川局 (2007) 「木曾川水系河川整備基本方針」
- 21) 長良川の鵜飼文化の魅力発信事業実行委員会 (岐阜市・岐阜市教育委員会) (2013) 、
「長良川鵜飼再発見」
- 22) 白滝治郎 (2009) 「つり人 753 号」『長良川ものがたり』67 . 「つり人 756 号」『長良川ものがたり』つり人社 88-91 .
- 23) 岐阜県加工食品ガイドブック (2013) 及び各店舗ホームページ
- 24) 岐阜県観光交流課 <http://www.kankou-gifu.jp/kr/portfolio/food/254/>
- 25) 郡上市 (2014) 「郡上市歴史的風致維持向上計画」16-60 .
- 26) 白鳥町 (1976) 「白鳥町史 (通史編 上巻)」
- 27) 白鳥町 (1977) 「白鳥町史 (通史編 下巻)」
- 28) 日本の滝選考会 (環境省及び林野庁後援) (1990)
- 29) 岐阜県観光交流課 <http://www.kankou-gifu.jp/kr/portfolio/trend/386/>
- 30) 環境省 (1985) 「名水百選」
- 31) 美並村 (1981) 「美並村史 (通史編・上巻)」
- 32) 農林水産省 (1999) 「日本の棚田百選」
- 33) 厚生省おいしい水研究会 (1985) 「水道水のおいしい都市 (32 市)」
- 34) 岐阜県 (2013) 「伝統的防災施設」
- 35) 丸山幸太郎 他編集 (2002) 「定本 長良川 母なる川 その悠々の歴史と文化」
- 36) 長良川の鵜飼研究会 (1994) 「ぎふ長良川の鵜飼」岐阜新聞社 56-57 .
- 37) 白滝治郎 (2009) 「つり人 760 号」『郡上鮎の誕生』86-89 .
- 38) 岐阜市 (2013) 「岐阜市歴史的風致維持向上計画」
- 39) 岐阜県 (2012) 「森林資源構成表」及び林野庁 (2013) 「育成林の森林経営対象森林率」
- 40) 岐阜市教育委員会 (2007) 「長良川鵜飼習俗調査報告書」100-113 .
- 41) 久津輪雅 (2013) 「森林のたより」公益社団法人岐阜県山林協会 11 .

申請サイト位置図



生物多様性リスト(植物)

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
1	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A.Braun	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
2	イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i> L.		絶滅危惧Ⅰ類
3	コハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom. var. <i>nipponicum</i> (Miyabe et Kudô) M.Nishida		絶滅危惧Ⅰ類
4	チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i> (Zenker ex Taschner) K.Iwats.		絶滅危惧Ⅰ類
5	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i> (Seriz.) Seriz.	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
6	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i> Tagawa	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
7	マツザカシダ	<i>Pteris nipponica</i> W.C.Shieh		絶滅危惧Ⅰ類
8	ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
9	トキワトラノオ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance		絶滅危惧Ⅰ類
10	アオガネシダ	<i>Asplenium wilfordii</i> Mett. ex Kuhn		絶滅危惧Ⅰ類
11	トキワシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
12	ヒロハナライシダ	<i>Leptorumohra sinomiqueliana</i> (Ching) Tagawa	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
13	ヨコグラヒメワラビ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa		絶滅危惧Ⅰ類
14	ツクシイヌワラビ	<i>Athyrium kuratae</i> Seriz.		絶滅危惧Ⅰ類
15	シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i> (Luerss.) Makino		絶滅危惧Ⅰ類
16	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i> Makino	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
17	クラガリシダ	<i>Dryotaenium miyoshianum</i> (Makino) Makino	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
18	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
19	ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi		絶滅危惧Ⅰ類
20	マダイオウ	<i>Rumex madaio</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
21	ヒゲネワチガイソウ	<i>Pseudostellaria palibiniana</i> (Takeda) Ohwi		絶滅危惧Ⅰ類
22	イブキトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>ibukiense</i> (Nakai) Kadota		絶滅危惧Ⅰ類
23	サバノオ	<i>Dichocarpum dicarpon</i> (Miq.) W.T.Wang et P.K.Hsiao		絶滅危惧Ⅰ類
24	オニバス	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
25	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> Miki	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
26	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
27	タンザワウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd. var. <i>tanzawana</i> Kigawa		絶滅危惧Ⅰ類
28	イワハタザオ	<i>Arabis serrata</i> Franch. et Sav. var. <i>japonica</i> (H.Boissieu) Ohwi		絶滅危惧Ⅰ類
29	シコクハタザオ	<i>Arabis serrata</i> Franch. et Sav. var. <i>shikokiana</i> (Nakai) Ohwi		絶滅危惧Ⅰ類
30	ミツバコンロンソウ	<i>Cardamine anemonoides</i> O.E.Schulz		絶滅危惧Ⅰ類
31	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
32	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> (Pall.) Fisch. var. <i>iwawange</i> (Makino) H.Ohba	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
33	サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i> Camb.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
34	エンジュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> Makino var. <i>microhypophylla</i> (Nakai) H.Hara	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
35	ミヤマクマヤナギ	<i>Berchemia pauciflora</i> Maxim.		絶滅危惧Ⅰ類
36	シロスマレ	<i>Viola patrinii</i> DC. var. <i>patrinii</i>		絶滅危惧Ⅰ類
37	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i> Siebold et Zucc.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
38	コオニビシ	<i>Trapa natans</i> L. var. <i>pumila</i> Nakano ex Verdc.		絶滅危惧Ⅰ類
39	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
40	サクラソウ	<i>Primula Sieboldii</i> E.Morren	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
41	コケリンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.		絶滅危惧Ⅰ類
42	ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i> Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
43	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
44	ヒメシロアサザ	<i>Nymphoides coreana</i> (H.Lév.) H.Hara	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
45	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
46	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
47	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
48	ジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i> Siebold ex Miq.		絶滅危惧Ⅰ類
49	クマツヅラ	<i>Verbena officinalis</i> L.		絶滅危惧Ⅰ類
50	オウギカズラ	<i>Ajuga japonica</i> Miq.		絶滅危惧Ⅰ類

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
51	シモバシラ	<i>Collinsonia japonica</i> (Miq.) Harley		絶滅危惧Ⅰ類
52	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i> Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
53	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
54	ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i> (Makino) Press	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
55	ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
56	トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>teucrifolia</i> (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. <i>caespitosa</i> Koidz.		絶滅危惧Ⅰ類
57	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i> (Thunb.) Makino ex T.Yamaz.	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
58	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i> Benth. ex Hook. et Arn.		絶滅危惧Ⅰ類
59	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
60	ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i> L.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
61	ヒメミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
62	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
63	センボンギク	<i>Aster microcephalus</i> (Miq.) Franch. et Sav. var. <i>microcephalus</i>		絶滅危惧Ⅰ類
64	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i> Kitam.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
65	タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> (Thunb.) Nakai subsp. <i>strigosa</i> (H.Lév. et Vaniot) Kitam.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
66	カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i> (Makino) Kitam.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
67	ハンカイソウ	<i>Ligularia japonica</i> Less.		絶滅危惧Ⅰ類
68	オオニガナ	<i>Nabalus tanakae</i> Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono		絶滅危惧Ⅰ類
69	スプタ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
70	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
71	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
72	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A.Benn.		絶滅危惧Ⅰ類
73	サガミトリゲモ	<i>Najas chinensis</i> N.Z.Wang	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
74	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
75	イバラモ	<i>Najas marina</i> L.		絶滅危惧Ⅰ類
76	オオトリゲモ	<i>Najas oguraensis</i> Miki		絶滅危惧Ⅰ類
77	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i> Blume	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
78	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i> (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
79	ステゴビル	<i>Allium inutile</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
80	ホソバナアマナ	<i>Lloydia triflora</i> (Ledeb.) Baker		絶滅危惧Ⅰ類
81	ヒメイズイ	<i>Polygonatum humile</i> Fisch. ex Maxim.		絶滅危惧Ⅰ類
82	ハコネハナゼキシヨウ	<i>Tofieldia coccinea</i> Richards. var. <i>gracilis</i> (Franch. et Sav.) T.Shimizu		絶滅危惧Ⅰ類
83	マルバサンキライ	<i>Smilax stans</i> Maxim.		絶滅危惧Ⅰ類
84	シロシヤクジョウ	<i>Burmannia cryptopetala</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
85	コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.		絶滅危惧Ⅰ類
86	ヤマトボシガラ	<i>Festuca japonica</i> Makino		絶滅危惧Ⅰ類
87	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> L.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
88	ケタガネソウ	<i>Carex ciliatomarginata</i> Nakai		絶滅危惧Ⅰ類
89	ニッコウハリスゲ	<i>Carex fulva</i> Franch.		絶滅危惧Ⅰ類
90	センダイスゲ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T.Koyama		絶滅危惧Ⅰ類
91	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi ex T.Koyama	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
92	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i> Makino et F.Maek.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
93	クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume		絶滅危惧Ⅰ類
94	スギラン	<i>Huperzia cryptomerina</i> (Maxim.) Dixit	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
95	タカサゴキジノオ	<i>Plagiogyria adnata</i> (Blume) Bedd.		絶滅危惧Ⅱ類
96	ハコネシダ	<i>Adiantum monochlamys</i> D.C.Eaton		絶滅危惧Ⅱ類
97	ナカミシシラン	<i>Haplopteris fudzinoi</i> (Makino) E.H.Crane		絶滅危惧Ⅱ類
98	ナチシダ	<i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh		絶滅危惧Ⅱ類
99	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i> Tagawa	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
100	ミドリカナワラビ	<i>Arachniodes nipponica</i> (Rosenst.) Ohwi		絶滅危惧Ⅱ類

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
101	オワセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i> Sa.Kurata		絶滅危惧Ⅱ類
102	ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze		絶滅危惧Ⅱ類
103	ツクシヤワランダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata		絶滅危惧Ⅱ類
104	ヤノネシダ	<i>Leptochilus buergerianus</i> (Miq.) Bosman		絶滅危惧Ⅱ類
105	イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i> (Houtt.) Ching		絶滅危惧Ⅱ類
106	オオクボシダ	<i>Micropolypodium okuboi</i> (Yatabe) Hayata		絶滅危惧Ⅱ類
107	サンショウソウ	<i>Pellionia minima</i> Makino		絶滅危惧Ⅱ類
108	ミヤマミズ	<i>Pilea angulata</i> (Blume) Blume subsp. <i>petiolaris</i> (Siebold et Zucc.) C.J.Chen		絶滅危惧Ⅱ類
109	ミヤマツトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
110	コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
111	シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
112	カワチブシ	<i>Aconitum grossedentatum</i> (Nakai) Nakai		絶滅危惧Ⅱ類
113	キヨミトリカブト	<i>Aconitum kiyomiense</i> Kadota		絶滅危惧Ⅱ類
114	レイジンソウ	<i>Aconitum loczyanum</i> Rapaics		絶滅危惧Ⅱ類
115	アズマレイジンソウ	<i>Aconitum pterocaule</i> Koidz.		絶滅危惧Ⅱ類
116	エンコウソウ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>enkoso</i> H.Hara		絶滅危惧Ⅱ類
117	コバノリュウキンカ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>pygmaea</i> Makino		絶滅危惧Ⅱ類
118	カザグルマ	<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
119	セツブンソウ	<i>Eranthis pinnatifida</i> Maxim.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
120	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
121	バイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> Nakai var. <i>submersus</i> H.Hara		絶滅危惧Ⅱ類
122	ヘビノボラズ	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.		絶滅危惧Ⅱ類
123	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> Franch. var. <i>nakaianum</i> (F.Maek.) Ohwi ex T.Sugaw.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
124	ヒメオトギリ	<i>Hypericum japonicum</i> Thunb.		絶滅危惧Ⅱ類
125	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
126	ナガミノツルキケマン	<i>Corydalis raddeana</i> Regel	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
127	ミカワショウマ	<i>Astilbe odontophylla</i> (Miq.) var. <i>okuyamae</i> (H.Hara) H.Hara	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
128	タキミチャルメルソウ	<i>Mitella stylosa</i> H.Boissieu var. <i>stylosa</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
129	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i> Pursh	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
130	ヤシヤビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
131	ミヤマモミジイチゴ	<i>Rubus pseudoacer</i> Makino	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
132	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i> Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
133	ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i> C.Morren et Decne.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
134	カジカエデ	<i>Acer diabolicum</i> Blume ex K.Koch		絶滅危惧Ⅱ類
135	コショウノキ	<i>Daphne kiusiana</i> Miq.		絶滅危惧Ⅱ類
136	マメグミ	<i>Elaeagnus montana</i> Makino		絶滅危惧Ⅱ類
137	ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i> L.		絶滅危惧Ⅱ類
138	ナンカイヒメイワカガミ	<i>Schizocodon ilicifolius</i> Maxim. var. <i>nankaiensis</i> T.Yamaz.		絶滅危惧Ⅱ類
139	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> Yatabe var. <i>tosaensis</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
140	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i> R.Br.		絶滅危惧Ⅱ類
141	ホソバオオアリドオン	<i>Damnacanthus indicus</i> Gaertn.f. var. <i>lancifolius</i> Makino		絶滅危惧Ⅱ類
142	イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i> Miq.		絶滅危惧Ⅱ類
143	エゾムラサキ	<i>Myosotis sylvatica</i> (Ehrh.) Hoffm.		絶滅危惧Ⅱ類
144	ダンドタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> (Koidz.) Koidz. var. <i>stolonifera</i> G.Nakai		絶滅危惧Ⅱ類
145	アオホオズキ	<i>Physaliastrum japonicum</i> (Franch. et Sav.) Honda	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
146	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
147	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i> S.Moore	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
148	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
149	ナンバンギセル	<i>Aeginetia indica</i> L.		絶滅危惧Ⅱ類
150	オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i> G.Beck		絶滅危惧Ⅱ類

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
151	ハクサンオオバコ	<i>Plantago hakusanensis</i> Koidz.		絶滅危惧Ⅱ類
152	リンネソウ	<i>Linnaea borealis</i> L.		絶滅危惧Ⅱ類
153	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
154	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.		絶滅危惧Ⅱ類
155	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i> DC.	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
156	ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i> L.		絶滅危惧Ⅱ類
157	カセンソウ	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.		絶滅危惧Ⅱ類
158	オカオグルマ	<i>Tephrosia integrifolia</i> (L.) Holub subsp. <i>kirilowii</i> (Turcz. ex DC.) B.Nord.		絶滅危惧Ⅱ類
159	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke		絶滅危惧Ⅱ類
160	コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino		絶滅危惧Ⅱ類
161	ホロムイソウ	<i>Scheuchzeria palustris</i> L.		絶滅危惧Ⅱ類
162	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
163	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i> (Murata) Hir.Takah. et M.Hotta	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
164	ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i> Maxim.		絶滅危惧Ⅱ類
165	ギョウジャニンニク	<i>Allium victorialis</i> L. subsp. <i>platyphyllum</i> Hultén		絶滅危惧Ⅱ類
166	キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth		絶滅危惧Ⅱ類
167	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i> (L.) Ker Gawl.		絶滅危惧Ⅱ類
168	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> Maxim. var. <i>micranthum</i> Satake	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
169	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i> Fisch.	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
170	ヌマカゼクサ	<i>Eragrostis aquatica</i> Honda		絶滅危惧Ⅱ類
171	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) Kuntze	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
172	ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberifera</i> Faurie ex Hack.		絶滅危惧Ⅱ類
173	ホソバテンナンショウ	<i>Arisaema angustatum</i> Franch. et Sav.		絶滅危惧Ⅱ類
174	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> Murata subsp. <i>brevicollum</i> (H.Ohashi et J.Murata) Seriz.	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
175	キシダマムシグサ	<i>Arisaema kishidae</i> Makino ex Nakai		絶滅危惧Ⅱ類
176	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> (Torr.) Soják subsp. <i>yagara</i> (Ohwi) T.Koyama		絶滅危惧Ⅱ類
177	クロヒナスゲ	<i>Carex gifuensis</i> Franch.		絶滅危惧Ⅱ類
178	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.		絶滅危惧Ⅱ類
179	オオアオスゲ	<i>Carex lonchophora</i> Ohwi		絶滅危惧Ⅱ類
180	コアゼテンツキ	<i>Fimbristylis aestivalis</i> (Retz.) Vahl		絶滅危惧Ⅱ類
181	シズイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják		絶滅危惧Ⅱ類
182	マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino		絶滅危惧Ⅱ類
183	ハナミョウガ	<i>Alpinia japonica</i> (Thunb.) Miq.		絶滅危惧Ⅱ類
184	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> Lindl. var. <i>discolor</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
185	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> (Miyabe et Kudô) Ohwi	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
186	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
187	ハクサンチドリ	<i>Dactylorhiza aristata</i> (Fisch. ex Lindl.) Soó		絶滅危惧Ⅱ類
188	ホクリクムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume var. <i>hokurikuensis</i> (Masam.) T.Hashim.		絶滅危惧Ⅱ類
189	エンシュウムヨウラン	<i>Lecanorchis suginoana</i> (Tuyama) Seriz.		絶滅危惧Ⅱ類
190	ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i> (Maxim.) Makino		絶滅危惧Ⅱ類
191	ミズチドリ	<i>Platanthera iinumae</i> (Makino) Makino		絶滅危惧Ⅱ類
192	ショウキラン	<i>Yoania japonica</i> Maxim.		絶滅危惧Ⅱ類
193	ヤマハナワラビ	<i>Botrychium multifidum</i> (S.G.Gmel.) Rupr.		準絶滅危惧
194	ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i> Underw.		準絶滅危惧
195	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> Baker		準絶滅危惧
196	クルマシダ	<i>Asplenium wrightii</i> D.C.Eaton ex Hook.		準絶滅危惧
197	イヌチャセンシダ	<i>Asplenium tripteropus</i> Nakai		準絶滅危惧
198	ミヤコヤブソテツ	<i>Cyrtomium yamamotoi</i> Tagawa		準絶滅危惧
199	ナチクジャク	<i>Dryopteris decipiens</i> (Hook.) Kuntze		準絶滅危惧
200	イワヤシダ	<i>Diplaziopsis cavaleriana</i> (H.Christ) C.Chr.		準絶滅危惧

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
201	サクラバハシノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand.-Mazz.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
202	コミヤマミズ	<i>Pilea notata</i> C.H.Wright		準絶滅危惧
203	マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i> (DC.) Danser		準絶滅危惧
204	ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H.Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe		準絶滅危惧
205	ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria praetermissa</i> (Hook.f.) H.Hara		準絶滅危惧
206	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	準絶滅危惧	準絶滅危惧
207	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai		準絶滅危惧
208	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
209	オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> K.Koch subsp. <i>japonica</i> K.Ueda		準絶滅危惧
210	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi		準絶滅危惧
211	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i> L.		準絶滅危惧
212	トウカイコモウセンゴケ	<i>Drosera tokaiensis</i> (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda		準絶滅危惧
213	キケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi		準絶滅危惧
214	ヤマブキソウ	<i>Hylomecon japonica</i> (Thunb.) Prantl et Kündig		準絶滅危惧
215	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i> (Maxim.) A.Berger	準絶滅危惧	準絶滅危惧
216	アカヒダボタン	<i>Chrysosplenium nagasei</i> Wakab. et H.Ohba var. <i>porphyranthes</i> Wakab. et H.Ohba		準絶滅危惧
217	ギンバイソウ	<i>Deinathe bifida</i> Maxim.		準絶滅危惧
218	ヤワタソウ	<i>Peltoboykinia tellimoides</i> (Maxim.) H.Hara		準絶滅危惧
219	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> Hook.f. et Thomson var. <i>foliosa</i>		準絶滅危惧
220	コキンバイ	<i>Geum ternatum</i> (Stephan) Smedmark		準絶滅危惧
221	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.		準絶滅危惧
222	エチゴキジムシロ	<i>Potentilla togasii</i> Ohwi		準絶滅危惧
223	ツルキンバイ	<i>Potentilla rosulifera</i> H.Lév.		準絶滅危惧
224	クロイチゴ	<i>Rubus mesogaeus</i> Focke		準絶滅危惧
225	カライトソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> Makino		準絶滅危惧
226	ミヤマワレモコウ	<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.		準絶滅危惧
227	イブキシモツケ	<i>Spiraea dasyantha</i> Bunge		準絶滅危惧
228	モメンヅル	<i>Astragalus reflexistipulus</i> Miq.		準絶滅危惧
229	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
230	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.		準絶滅危惧
231	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i> Fisch. ex Ser.		準絶滅危惧
232	ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i> Matsum.		準絶滅危惧
233	ビッチュウフウロ	<i>Geranium yoshinoi</i> Makino ex Nakai		準絶滅危惧
234	テツカエデ	<i>Acer nipponicum</i> H.Hara subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>		準絶滅危惧
235	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i> Rupr.		準絶滅危惧
236	ゴキヅル	<i>Actinostemma tenerum</i> Griff.		準絶滅危惧
237	ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i> Miq.		準絶滅危惧
238	ヤマトグサ	<i>Theligonum japonicum</i> Okubo et Makino		準絶滅危惧
239	イブキボウフウ	<i>Libanotis ugoensis</i> (Koidz.) Kitag. var. <i>japonica</i> (H.Boissieu) T.Yamaz.		準絶滅危惧
240	シヤクジョウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i> Crantz		準絶滅危惧
241	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A.DC.		準絶滅危惧
242	クリンソウ	<i>Primula japonica</i> A.Gray		準絶滅危惧
243	ハシドイ	<i>Syringa reticulata</i> (Blume) H.Hara		準絶滅危惧
244	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
245	ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.		準絶滅危惧
246	マネギグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino	準絶滅危惧	準絶滅危惧
247	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i> Maxim.		準絶滅危惧
248	ホナガタツナミソウ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz. var. <i>maekawae</i> (H.Hara) H.Hara		準絶滅危惧
249	シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. subsp. <i>aromatica</i> (Lam.) T.Yamaz.		準絶滅危惧
250	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i> Fisch. ex Trevir.		準絶滅危惧

No.	和名	学名	レッドデータブック	
			環境省	岐阜県
251	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> Miq. var. <i>japonica</i>		準絶滅危惧
252	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i> (Jacq.) A.DC.	絶滅危惧II類	準絶滅危惧
253	ノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> L. var. <i>longiligulata</i> H.Hara		準絶滅危惧
254	フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
255	スイラン	<i>Hololeion krameri</i> (Franch. et Sav.) Kitam.		準絶滅危惧
256	ミズギク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.		準絶滅危惧
257	ヤマタイミンガサ	<i>Parasenecio yatabei</i> (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. <i>yatabei</i>		準絶滅危惧
258	ニシノヤマタイミンガサ	<i>Parasenecio yatabei</i> (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. <i>occidentalis</i> (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama		準絶滅危惧
259	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (H.Hara) M.Hotta		準絶滅危惧
260	コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. f. <i>pseudotigrinum</i> (Carrière) H.Hara et Kitam.		準絶滅危惧
261	イワシヨウブ	<i>Triantha japonica</i> (Miq.) Baker		準絶滅危惧
262	ヒメシヤガ	<i>Iris gracilipes</i> A.Gray	準絶滅危惧	準絶滅危惧
263	ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> Buchenau var. <i>effusoides</i> Buchenau		準絶滅危惧
264	ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
265	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
266	セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.		準絶滅危惧
267	ミヤマアブラススキ	<i>Spodiopogon depauperatus</i> Hack.		準絶滅危惧
268	オオアブラススキ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.		準絶滅危惧
269	オキナワジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i> Steud. var. <i>fastigiata</i> T.Koyama		準絶滅危惧
270	チャイトスゲ	<i>Carex sachalinensis</i> F.Schmidt var. <i>aureobrunnea</i> (Ohwi) Ohwi		準絶滅危惧
271	オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Sav. var. <i>spiralis</i> Ohwi		準絶滅危惧
272	コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i> Steud.		準絶滅危惧
273	マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim. ex Okubo	準絶滅危惧	準絶滅危惧
274	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.	準絶滅危惧	準絶滅危惧
275	ギンラン	<i>Cephalathera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>erecta</i>		準絶滅危惧
276	アオチドリ	<i>Dactylorhiza viridis</i> (L.) R.M.Bateman.A. M. Pridgeton et M. W. Chase		準絶滅危惧
277	ツチアケビ	<i>Cyrtosia seotentrionalis</i> (Rchb. f.) Garay C.		準絶滅危惧
278	イチヨウラン	<i>Dactylostalix ringens</i> Rchb.f.		準絶滅危惧
279	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray		準絶滅危惧
280	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume		準絶滅危惧
281	ノビネチドリ	<i>Neolindleya camtschatica</i> (Cham.) Nevski		準絶滅危惧
282	アオフタバラン	<i>Neottia makinoana</i> (Ohwi) Szlach.		準絶滅危惧
283	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.		準絶滅危惧
284	ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i> Franch. et Sav.		準絶滅危惧
285	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb. f. var. <i>oreades</i> (Franch. et Sav.) Koidz.		準絶滅危惧

※環境省 (2012) 第4次レッドリスト

※岐阜県 (2014) 岐阜県レッドデータブック (植物編) 改訂版

生物多様性リスト(動物)

No.	分類群	和名	学名	レッドデータブック	
				環境省	岐阜県
1	哺乳類	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i> Thomas	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
2	哺乳類	テングコウモリ	<i>Murina leucogaster</i> Milne-Edwards	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
3	哺乳類	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i> (Pallas)		準絶滅危惧
4	鳥類	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i> Sharpe	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅰ類
5	鳥類	ミゾゴイ	<i>Gorsakius goisagi</i> (Temminck)	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅱ類
6	鳥類	クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis orientalis</i> Temminck et Schlegel	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅱ類
7	鳥類	ヒクイナ	<i>Porzana fusca erythrothorax</i> (Temminck et schlegel)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
8	鳥類	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i> (Gray)	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
9	鳥類	コアジサシ	<i>Sterna albifrons sinensis</i> Gmelin	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
10	鳥類	コノハズク	<i>Otus scops japonicus</i> Temminck et Schlegel		絶滅危惧Ⅱ類
11	鳥類	カイツブリ	<i>Podiceps ruficollis poggei</i> (Reichenow)		準絶滅危惧
12	鳥類	オシドリ	<i>Aix galericulata</i> (Linnaeus)	情報不足	準絶滅危惧
13	鳥類	ハチクマ	<i>Pernis apivorus japonicus</i> Kuroda	準絶滅危惧	準絶滅危惧
14	鳥類	オオタカ	<i>Accipiter gentilis fuyijamae</i> (Swan et Hartert)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
15	鳥類	ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i> (Tickell)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
16	鳥類	サシバ	<i>Butastur indicus</i> (Gmelin)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
17	鳥類	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i> Gmelin	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
18	鳥類	ヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i> Gould		準絶滅危惧
19	鳥類	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i> (Linnaeus)		準絶滅危惧
20	鳥類	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus nihonensis</i> Deignan		準絶滅危惧
21	鳥類	アオバズク	<i>Ninox scutulata japonica</i> (Temminck et Schlegel)		準絶滅危惧
22	鳥類	フクロウ	<i>Strix uralensis</i> Pallas		準絶滅危惧
23	鳥類	ヨダカ	<i>Caprimulgus indicus jotaka</i> Temminck et Schlegel	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
24	鳥類	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris lugubris</i> (Temminck)		準絶滅危惧
25	鳥類	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i> (Raffles)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
26	鳥類	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i> (Temminck et Schlegel)		準絶滅危惧
27	鳥類	コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i> Raffles		準絶滅危惧
28	鳥類	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata atrocaudata</i> (Eyton)		準絶滅危惧
29	鳥類	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i> Temminck et Schlegel	準絶滅危惧	準絶滅危惧
30	爬虫類	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i> (Temminck et Schlegel)	情報不足	準絶滅危惧
31	両生類	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i> (Temminck et Schlegel)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
32	両生類	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i> (Temminck)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
33	両生類	ナゴヤダルマガエル	<i>Rana porosa brevipoda</i> Ito	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅱ類
34	両生類	ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i> Dunn	準絶滅危惧	準絶滅危惧
35	両生類	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i> Boulenger		準絶滅危惧
36	魚類	イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i> Jordan et Fowler	絶滅危惧IA類	絶滅危惧Ⅰ類
37	魚類	シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i> Jordan et Thompson	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅰ類
38	魚類	カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypsis rasborella</i> Fowler	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅰ類
39	魚類	ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i> subsp. 2	絶滅危惧IA類	絶滅危惧Ⅰ類
40	魚類	ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i> (Okada et Kubota)	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅰ類
41	魚類	ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus leiurus</i> Cuvier	絶滅危惧IA類	絶滅危惧Ⅰ類
42	魚類	スナヤツメ北方種	<i>Lethenteron</i> sp. 1	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
43	魚類	カマキリ(アユカケ)	<i>Cottus kazika</i> Jordan et Starks	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
44	魚類	カジカ小卵型	<i>Cottus reinii</i> Hilgendorf	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅱ類
45	魚類	スナヤツメ南方種	<i>Lethenteron</i> sp. 2	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
46	魚類	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i> (Temminck et Schlegel)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
47	魚類	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i> (Temminck et Schlegel)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
48	魚類	ヌマムツ	<i>Zacco sieboldii</i> (Temminck et Schlegel)		準絶滅危惧
49	魚類	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i> (Temminck et Schlegel)		準絶滅危惧
50	魚類	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i> Jordan and Richardson	絶滅危惧IB類	準絶滅危惧

No.	分類群	和名	学名	レッドデータブック	
				環境省	岐阜県
51	魚類	サツキマス(アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i> Jordan et McGregor	準絶滅危惧	準絶滅危惧
52	魚類	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i> (Cuvier)		準絶滅危惧
53	魚類	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i> (Temminck et Schlegel)		準絶滅危惧
54	魚類	トウカイヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. TO	準絶滅危惧	準絶滅危惧
55	昆虫類	コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i> Selys	絶滅危惧IB類	絶滅危惧I類
56	昆虫類	ベニイトトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i> Asahina	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
57	昆虫類	タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i> (Vuillefroy)	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
58	昆虫類	ヒメタイコウチ	<i>Nepa hoffmanni</i> Esaki		絶滅危惧II類
59	昆虫類	コクロオバボタル	<i>Lucidina okadai</i> Nakane et Ohbayashi	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
60	昆虫類	フタスジカタビロハナカミキリ	<i>Brachyta bifasciata japonica</i> (Matsushita)		絶滅危惧II類
61	昆虫類	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta bethesaba</i> (Janson)	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
62	昆虫類	クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i> (Bremer)	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類
63	昆虫類	キマダラルリツバメ	<i>Spindasis takanonis</i> (Matsumura)	準絶滅危惧	絶滅危惧II類
64	昆虫類	ミヤマカラスシジミ	<i>Strymonidia mera</i> (Janson)		絶滅危惧II類
65	昆虫類	ムズジイトトンボ	<i>Cercion sexlineatum</i> (Selys)		準絶滅危惧
66	昆虫類	エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i> (Selys)		準絶滅危惧
67	昆虫類	ホンサナエ	<i>Gomphus postocularis</i> Selys		準絶滅危惧
68	昆虫類	ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagoyanus</i> (Asahina)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
69	昆虫類	カラカネトンボ	<i>Cordulia aenea amurensis</i> Selys		準絶滅危惧
70	昆虫類	トラフトンボ	<i>Epitheca marginata</i> (Selys)		準絶滅危惧
71	昆虫類	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i> (Selys)		準絶滅危惧
72	昆虫類	ヒメハルゼミ	<i>Euterpnosia chibensis chibensis</i> Matsumura		準絶滅危惧
73	昆虫類	アカマダラコガネ	<i>Poecilophilides rusticola</i> (Burmeister)	情報不足	準絶滅危惧
74	昆虫類	オオオビハナノミ	<i>Glipa shirozui</i> Nakane		準絶滅危惧
75	昆虫類	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i> Chevrolat		準絶滅危惧
76	昆虫類	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	<i>Dolichoprosopus yokoyamai</i> (Gresiitt)		準絶滅危惧
77	昆虫類	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i> (Bremer et Grey)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
78	昆虫類	スジグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus leoninus leoninus</i> (Butler)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
79	昆虫類	ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i> Leech	絶滅危惧II類	準絶滅危惧
80	昆虫類	キリシマミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus ataxus kirishimaensis</i> (Okajima)		準絶滅危惧
81	昆虫類	キマダラモドキ	<i>Kirinia epaminondas</i> (Staudinger)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
82	昆虫類	イセキリガ	<i>Conistra sakabei</i> (Sugi)		準絶滅危惧
83	昆虫類	ヤヒコカラスヨトウ	<i>Amphipoea subrigua</i> Bremen et Grey.		準絶滅危惧
84	昆虫類	エチゴハガタヨトウ	<i>Asidemia inexpecta inexpecta</i> (Sugi)		準絶滅危惧
85	昆虫類	イワアツバ	<i>Megaloptena punctilinealis</i> (Leech)		準絶滅危惧
86	昆虫類	オオキイロアツバ	<i>Pseudalelimma miwai</i> Inoue		準絶滅危惧
87	貝類	オバエボシガイ	<i>Inversidens brandti</i> (Kobelt)	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
88	貝類	ヨコハマシジラガイ	<i>Inversunio yokohamensis</i> (Ihering)	準絶滅危惧	絶滅危惧I類
89	貝類	イシガイ	<i>Unio douglasiae nipponensis</i> (Martens)		絶滅危惧II類
90	貝類	カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i> (Heimburg)	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
91	貝類	カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i> (Haas)	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
92	貝類	トンガリササノハガイ	<i>Lanceolaria grayana</i> (Lea)	準絶滅危惧	絶滅危惧II類
93	貝類	マツカサガイ	<i>Pronodularia japonensis</i> (Lea)	準絶滅危惧	絶滅危惧II類
94	貝類	コシタカコベソマイマイ	<i>Satsuma fusca</i> (Gude)	準絶滅危惧	準絶滅危惧
95	貝類	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (Martens)	準絶滅危惧	準絶滅危惧

※環境省 (2012) 第4次レッドリスト

※岐阜県 (2010) 岐阜県レッドデータブック (動物編) 改訂版 (2010)

農林水産物等の多様性リスト

分類	名称	英名	学名
水産物	アユ	Ayu	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>
	アマゴ(サツキマス)	Satsukimasu salmon	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>
	イワナ	Whitespotted char	<i>Salvelinus leucomaenis</i>
	ニジマス	Rainbow trout	<i>Oncorhynchus mykiss</i>
	ウナギ	Japanese eel	<i>Anguilla japonica</i>
	ウグイ	Japanese dace	<i>Tribolodon hakonensis</i>
	オイカワ	Pale chub	<i>Zacco platypus</i>
	コイ	Common carp	<i>Cyprinus carpio</i>
	ニゴイ	Japanese barbell	<i>Hemibarbus barbus</i>
	フナ	Crucian carp	<i>Carassius</i> spp.
	ドジョウ	Weather loach	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>
	アジメドジョウ	Ajime-loach	<i>Niwaella delicata</i>
	モロコ	Japanese minnow	Species of genus <i>gnathopogon</i> or <i>squalidus</i>
	ナマズ	Japanese catfish	<i>Silurus asotus</i>
	ヨシノボリ	Freshwater goby	<i>Rhinogobius</i> spp.
	カジカ	Japanese sculpin	<i>Cottus</i> spp.
	モクズガニ	Japanese mitten crab	<i>Eriocheir japonica</i>
	テナガエビ	Freshwater prawn	<i>Macrobrachium nipponense</i>
米	イネ(うるち米)	Rice	<i>Oryza sativa</i> L.
	イネ(もち米)	Sticky rice	<i>Oryza sativa</i> L.
麦類	ムギ(小麦)	Wheat	<i>Triticum aestivum</i> L.
	ムギ(大麦)	Barley	<i>Hordeum vulgare</i> L.
雑穀	ソバ	Buckwheat	<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench
豆類	ダイズ	Soybean	<i>Glycine max</i> (L.) Merrill
野菜	ホウレンソウ	Spinach	<i>Spinacia oleracea</i> L.
	ナス	Eggplant	<i>Solanum melongena</i> L.
	トマト	Tomato	<i>Lycopersicon esculentum</i> Mill.
	キュウリ	Cucumber	<i>Cucumis sativus</i> L.
	イチゴ	Strawberry	<i>Fragaria×ananassa</i> Duch.
	エダマメ	Green soybeans	<i>Glycine max</i> L.
	サトイモ	Taro	<i>Colocasia seculenta</i> (L.) Schott
	ネギ	Welsh onion	<i>Allium fistulosum</i> L.
	タマネギ	Onion	<i>Allium cepa</i> L.
	ゴボウ	Burdock	<i>Arctium lappa</i> L.
	センゴクマメ	Hyacinth bean	<i>Lablab purpurea</i> (L.) Sweet
	ダイコン	Japanese radish	<i>Raphanus sativus</i> L.
	果実	ウメ	Japanese apricot
カキ		Japanese persimmon	<i>Diospyros kaki</i> L. f.
キウイフルーツ		Kiwifruit	<i>Actinidia chinensis</i> Planch.
クリ		Japanese chestnut	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
ナシ		Japanese pear	<i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. F.) Nakai
パッションフルーツ		Passion fruit	<i>Passiflora edulis</i> Sims
ブドウ		Grape	<i>Vitis</i> spp.
ブルーベリー		Blueberry	<i>Vaccinium</i> spp.
ユズ		Yuzu	<i>Citrus junos</i> Sieb. ex Tanaka
リンゴ		Apple	<i>Malus pumila</i> Mill.
花き	ナンテン類	Nandina, heavenly bam-boo	<i>Nandina domestica</i> Thunb.
	ベゴニア(エラチオール等)	Winter-flowering begonia	<i>Begonia x hiemalis</i>
	カランコエ	Palm-beach-bells	<i>Kalanchoe</i> spp.
	フランネルフラワー	Flannel flower	<i>Actinotus helianthi</i> Labill
	ユリオプスデージー	Grey-leaved euryops	<i>Euryops pectinatus</i> (L.) Cass.

分類	名称	英名	学名
畜産	ウシ	Japanese black cow	<i>Bos taurus</i>
	ウシ	Holstein	<i>Bos taurus</i>
	ブタ	Pig	<i>Sus scrofa domesticus</i>
	ニワトリ	Broiler	<i>Gallus gallus domesticus</i>
	ニワトリ	Layers	<i>Gallus gallus domesticus</i>
林産物	スギ	Ceder	<i>Cryptomeria japonica</i>
	ヒノキ	Japanese cypress	<i>Chamaecyparis obtusa</i>
キノコ類	生シイタケ(菌床)	Fresh Shiitake mushroom	<i>Lentinula edodes</i>
	生シイタケ(原木)	Fresh Shiitake mushroom	<i>Lentinula edodes</i>
	乾シイタケ(菌床)	Dried Shiitake mushroom	<i>Lentinula edodes</i>
	乾シイタケ(原木)	Dried Shiitake mushroom	<i>Lentinula edodes</i>
	マイタケ	Maitake	<i>Grifola frondosa</i>
	キクラゲ	Judas' ear fungus	<i>Auricularia auricula</i>

※岐阜県調査